スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- **「必読!安全運転のために」**および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠警 告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
⚠注 意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注 記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

◇ お車の正しい取扱い方法
◇ 日常点検、定期点検
◇ 保証内容と保証期間
◇ 保証書の発行《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成32年排出ガス規制適合車です。

もくじ

必読！安全運転のために

安全のために心がけること 4
運転の前に 16
ブレーキについて 22
使用燃料 25
アクセサリの取り付けや積載について 26
改造について 31

取扱いの方法

装備一覧 32
メータの見かた 50
運転アシストシステムの設定 82
インフォメーションの設定 106
ディスプレイの設定 112
メインスイッチ 131
ハンドルスイッチ 138
エンジンのかけかた 143
駐車のしかた 150
ガソリンの給油 151
シフトペダル 155
ブレーキレバー 163
リヤブレーキペダル 165
シート 165
サスペンション 167
ウインドスクリーン 175
USB ソケット 176
ヘルメットロック 178
リヤキャリア 179

お車の点検および簡単な整備

点検と整備 180
日常点検と定期点検 183
サービス工具 188
注油 189
バッテリ 191
エアクリーナ 197
エンジンオイル 207
冷却水 216
ドライブチェーン 222
クラッチ 228
ブレーキ 229
シフトペダル 240
タイヤ 242
ホイール 248
サイドスタンド / インタロックシステム 250
ヒューズ 251
灯火装置、方向指示器 256

トラブルシューティング

トラブルシューティングとは 258
エンジンがかからないときは 258
オーバーヒートしているときは 259
油圧が下がったときは 261
メータに次の表示が出たときは 262
お車が次の状態のときは 263

お車の手入れ	保管のしかた ..... 264 長期保管後は 266	サビを防ぐために ..... 267 洗車 269	洗車後は 277
インフォメーション	触媒装置 ..... 278 車両の情報記録装置 279	識別ナンバー打刻位置 ..... 282 環境を保護するために 285	
サービスデータ	主要諸元 288	サービスデータ 290	

必読！安全運転のために

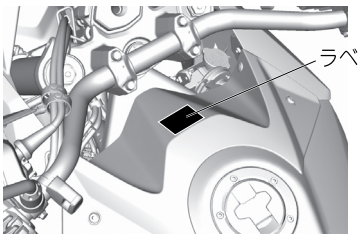
安全のために心がけること

■ 事故や故障を避けるために

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

お車のご購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、なれるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

◇重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。運転するときは、これらの注意をいつもお守りください。また、決してはがさないでください。



- **転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。**
- **取扱説明書をよくお読みください。**

◇二輪車事故は他の運転者から気づかれないことが要因で起きることがあります。次のことに注意して運転してください。
- 明るい昼間でもヘッドランプやテールランプを点灯する
- 他の運転者の死角に入らない

◇運転中は両手でハンドルを握り、足をフットレストに置いてください。同乗者には両手で身体をしっかり固定させ、足を後席用フットレストに乗せさせてください。

◇急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因になりますので絶対にしないでください。

◇荷物の積載は、操縦安定性に影響を与えます。積み過ぎに注意して安全な速度で運転してください。荷物をのせるときは「積載について」（☞P.28）を参照してください。

＜点検整備をしましょう＞

事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。

もし、いつもと違う音やにおいがしたり、液漏れした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。日常点検と定期点検については「日常点検と定期点検」（☞P.183）を参照してください。

▲警 告

スピードの出しすぎによって，操縦のコントロールを失う可能性が高くなります。その結果，事故につながるおそれがあります。

走行時の路面，視界，操作状況やあなたの技量，経験に適した速度で走行してください。

▲警 告

運転中にハンドルから手を離したり，フットレストから足を離したりすると操縦性に影響がでます。その結果，バランスを失ったり転倒を引き起こしたりするおそれがあります。フットレストから足を離すとリヤホイールに接触するおそれがあります。その結果，傷害や事故を引き起こすおそれがあります。

運転中は必ず，両手でハンドルを握り，両足をフットレストに置いてください。

■ 安全な運転は正しい服装から

＜概要＞

運転者と同乗車は必ずヘルメットを着用し、保護性が高く運転のしやすい服装や保護具を着用してください。次の内容を参考にご用意ください。

＜ヘルメット＞

- ヘルメットを必ず着用してください。PSC、SGまたはJISマークのある二輪車用ヘルメットを必ずかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。ヘルメットは頭にしっくり合って圧迫感のないものをお選びください。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを着用してください。風から視界を確保できるだけでなく、空気中の虫、ほこり、前を走っている車が巻き上げる小石などからも目を守ります。

⚠警 告

ヘルメットは、正しくかぶらないと事故の際に死亡または重大な傷害を負う可能性が高くなります。

ヘルメットを正しくかぶってください。運転者だけでなく、同乗者も必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

＜適切な服装＞

- 保護具や保護性の高い服装を着用してください。服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用しましょう。万一のとき身体への衝撃を軽減します。また、運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどのゆったりした服装は運転操作の邪魔になります。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。
- 必要に応じてプロテクタを備えたジャケットやパンツを着用してください。

▲警 告

後席の人が背丈の長いジャケットやコートを着用するとテールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続車に認識されず危険です。

後席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートをできるだけ着用しないでください。着用する場合は、すそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが隠れないようにしてください。

＜同乗者の装備＞
二人乗りするときは、同乗者も運転手と同じようにヘルメットと保護具を着用してください。同乗者の服がホイールやチェーンなどに巻き込まれるおそれがありますので、スカートやゆったりしたズボンなどは避け、靴紐にも注意してください。

■ 環境に合わせた運転をしましょう

＜風が強い日は＞
横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。
スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。

⚠警 告

大型の車両に追い越されたりトンネルの出口や丘陵の多い土地では，突然横風を受けたり，運転のコントロールを失うことがあります。

速度を落とし，横風に警戒してください。

＜雨の日や雪の日は＞

- 濡れた道、荒れた道、やわらかい道はすべりやすいので、急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。また、これらの道は制動距離がのびるため、ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。雨が降ると道路にしみこんでいた油分が道路に浮き上がりますのですべりやすくなっています。路面標示、マンホール、グレーチング(溝のふた)、橋のつなぎ目などの金属部、線路などもすべりやすくなっていますので、特に注意してください。
- コーナリング時のブレーキングは挙動が不安定になります。コーナーに差し掛かる前に十分にスピードを落としましょう。タイヤと路面の間の摩擦力には限界がありますので、限界を超えた場合にはタイヤがすべり、コントロールを失って転倒するおそれがあります。

⚠警 告

すべりやすい路面で強いブレーキをかけるとホイールが横すべりし転倒するおそれがあります。

すべりやすい路面では, ブレーキは慎重にかけてください。

♪アドバイス

- **濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落として余裕をもったブレーキ操作をしましょう。**
- **洗車後や水たまり走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。**

＜冠水した道は＞

冠水した場所は走行しないでください。
万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店にご連絡ください。
また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- コネクタ、配線の浸水
- ベアリングなどの潤滑不良
- エンジンオイルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますので、オイル交換が必要です。）

注 記

冠水した場所や深い水たまりを走行しないでください。

エンスト、電装品の故障、エンジンの破損などの原因となります。

■ お車になれるまでは

運転技術と機械的な知識を身につけることが、安全に運転するための基本です。安全に運転するためにも、お車をお買いあげいただいた直後は、交通量の少ない場所でお車の運転と操作になれることをおすすめします。

■ 乗車定員

乗車定員は、2名です。
定員を超えての走行は危険ですので、絶対にお止めください。

＜二人乗りの手引き＞

二人乗り(タンデム)は、二輪車ならではの感覚を楽しみ、共有できる乗り方ですが、同乗者の体重はハンドリングとブレーキングに影響するため、一人乗りのときとは乗り方を変えなければなりません。

二人乗りする場合、必要に応じで次の項目をご確認ください。

- 空気圧の点検：（☞P.245）参照
- リヤショックアブソーバ：（☞P.167）参照
- 積載について：（☞P.28）参照

走行前に同乗者の足がフットレストに届くかを確認してください。また、安全に運転するためには、同乗者も二輪車の動きや同乗者としての乗り方を知っておく必要があります。同乗者に次の内容を事前に理解してもらってください。

- 同乗者は運転手の腰回りをつかむか、タンデムベルトやグラブバーがある場合にはそれらをつかんで体を安定させます。
- 同乗者は、運転手がバランスを崩す原因になるため、突然動かないようにしてください。また、カーブを曲がるときには、運転手に合わせて体を傾けるようにしましょう。
- 同乗者は、足がマフラなどに触れてやけどをしないために、信号などで停車するときにも足はフットレストにのせたままにしてください。乗り降りのときにも触れないように注意しましょう。

■ 一酸化炭素について

一酸化炭素中毒を防ぐために、風通しのよい場所でエンジンをかけてください。
排気ガスに含まれる一酸化炭素は、無色・無臭のために発生に気付きにくい気体です。一酸化炭素中毒になると、軽度の場合は頭痛や吐き気からはじまり、重度になると致命傷に致る危険性があります。

⚠警 告

閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所ではエンジンをかけないでください。

排気ガス中の一酸化炭素などの有害な成分により、中毒になるおそれがあります。

■ 交通ルールを守りましょう

運転するときは、交通ルールを順守してください。礼儀やマナーのある運転を行い、他の運転手の模範になれるようにしましょう。

■ まとめ

事故を回避するには環境に応じた判断力と注意力が必要です。交通状況はもちろん、路面や天候に加え、お車の状態も変化します。また、他の車の動きは予測しにくいため、常に注意を払いましょう。
なれていない運転方法や無茶な運転は、事故の原因になります。
ヘルメットや保護具はしっかりと着用しましょう。

運転の前に

■ ならし運転

＜概要＞

新車時からの最初の1,000 km は、車の寿命にとって最も大切な期間です。この期間に正しくならしをすることによって、寿命をのばし、本来の性能を得ることができます。

ならし運転中は、不必要な空ふかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ならし運転については、次の手順を参照してください。

＜エンジン回転速度の限度＞

最初の1,000 kmを走行するまでは、エンジン回転4,500 r/min以下で走行してください。

＜ならし運転のコツ＞

ならし運転中のエンジン回転速度には、変化をつけるようにしてください。回転速度に変化をつけることで部品にかかる負荷が変わり、部品に当たりをつけることができます。エンジン部品に当たりをつけるために、ある程度の負荷は必要ですので回転速度の限度を超えない範囲で運転してください。

＜タイヤを交換したとき＞

新しいタイヤは、エンジンと同じように本来の性能を引き出すためには、ならしが必要です。新しいタイヤはスリップしやすいので、最初の160 kmは出来るだけ倒す角度を小さくしてください。最初の160 km を超えてからは、倒す角度を徐々に大きくして、ならしてください。また、最初の160 km までは、急加速、ハードなコーナリング、急ブレーキを避けてください。

▲警 告

新品のタイヤはすべりやすいため、タイヤのならし運転を適切に行わないと転倒するおそれがあります。

新品タイヤ装着時は「ならし運転」（☞P.16）を参照して、約160 km走行するまでタイヤのならし運転を行ってください。

■ 坂道では

＜坂道での走りかた＞

- 高いギヤで急な坂を登っていると、出力が不足してスピードが落ちるときがあります。スピードが落ちる前に低いギヤにシフトダウンしましょう。スピードが落ちすぎる前に素早くシフトしてください。
- 長い下り坂では、エンジンブレーキを併用しましょう。スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキがはたらきます。より強いエンジンブレーキを必要とするときは、6速→5速…とシフトダウンします。長い間ブレーキをかけ続けるとブレーキが加熱して効きが悪くなりますので、注意してください。
- 下り坂でのエンジン回転のあがりすぎには注意してください。

⚠警 告

長時間ブレーキをかけ続けると、ブレーキが加熱して効きが悪くなりますので、事故の原因になるおそれがあります。

下り坂にさしかかる前には、十分減速してください。

注 記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。

クラッチが過熱し、故障の原因となります。

■ 停車時や駐車時は

＜停めかた＞

車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。「メインスイッチ」（☞P.131）参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平坦でしっかりした地面の場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこなところ、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分注意してください。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の人がエキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

⚠警 告

マフラに内蔵されている触媒装置は高温になりますので、駐停車したときに燃えやすいものが近くにあると、火災の原因となるおそれがあります。

駐停車するときは、車の周りに枯れ草、木材、紙、油脂類などの燃えやすいものがないことを確認してください。

⚠注 意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このときに触るとやけどを負うおそれがあります。

歩行者や子供などが触れにくい場所に停めてください。

アドバイス

盗難抑止のため、必要に応じてU字ロック等の盗難抑止ロックをしてください。盗難抑止ロックは車両を動かす前に、必ず外してください。

アドバイス

斜面でサイドスタンドを使用して停めると倒れるおそれがあるので、平坦な場所に止めることをおすすめします。斜面に停めざるを得ない場合は、お車の正面を坂の上に向けて停め、タイヤを固定するためにギヤを1速に入れてください。エンジンをかけるときは、ニュートラルにシフトしてください。

■ 車を押して移動するとき

車を押して移動するときは、メインスイッチをOFFにしてください。

ブレーキについて

■ ABSとは

ABSは、走行中ブレーキをかけたときにホイールがロックしないように制御する装置です。

ブレーキの操作方法は、ABSを装備していない車と同様にブレーキレバーおよびブレーキペダルで行います。

ABSは、電子制御でブレーキ圧をコントロールしています。このシステムはホイールの回転スピードを監視しており、ホイールロックを検知したときにブレーキ圧力を下げることでホイールロックを防ぐ働きをします。また、8 km/h未満の低速時やバッテリが上がっている場合を除き、常に作動しているため、特別な操作は必要ありません。

ブレーキをかけたときにABSがホイールのロックを防いでいるときには、ブレーキレバーやブレーキペダルが軽く振動しますが異常ではありませんのでそのままブレーキをかけ続けてください。

なお、ABSは、判断ミスや操作ミス、また路面や気象条件によってはABSを非装備の車より制動距離が長くなる場合があります。ABSに頼りすぎないようにしてください。

タイヤサイズを変えるとホイール回転数に影響を与え、正常に機能しないおそれがありますので、必ず指定タイヤ（☞P.244）をご使用ください。

この車両はABSの制御介入レベルを変更できます。下記のモードから選択可能です。

- Mode-1
- Mode-2
- Rear-OFF

設定は、「ABSモード」（☞P.92）を参照してください。

▲警 告

ABSはすべての路面状況に対応できるものではありませんので、誤った判断や操作をすると事故の原因になるおそれがあります。

路面や気象条件に合わせた運転を行ってください。

アドバイス

ABS は制動距離を短くするものではありません。濡れた路面や雪道、でこぼこ路や下り坂などでは、ABSが付いていない車より制動距離が長くなる場合があります。またABSが付いていない車と同様に路面がすべりやすくなるほど制動距離が長くなります。

■ ブレーキのかけかた

1. スロットルグリップを戻します。
2. フロントとリヤのブレーキを同時に使い、エンジンブレーキを併用します。
3. 速度に合わせてシフトダウンします。
4. 停止する前にクラッチを切り、ギヤをニュートラルに入れます。

⚠警 告

フロントブレーキまたはリヤブレーキのどちらか一方だけを使用すると制動力を効果的に得られず、衝突やスリップ、バランスを崩すおそれがあります。

制動力を効果的に得るためにはフロントブレーキとリヤブレーキを同時にかけてください。

⚠警 告

ABSを装備、非装備に関係なくコーナリング中に強いブレーキをかけるとスリップやバランスを崩すおそれがあります。ABS装備車でもコーナリング中の強いブレーキによる横すべりは制御できません。

コーナーの手前では十分に減速してください。

⚠警 告

濡れた道、荒れた道、やわらかい道はすべりやすいため、制動距離が長くなるだけでなくスリップやバランスを失うおそれがあります。

すべりやすい路面や整備されていない路面では、ブレーキは早めに、また慎重にかけてください。

▲警 告

前方車両との車間距離が短いと衝突するおそれがあります。

安全に止まれるように十分な車間距離をとって走行してください。

使用燃料

無鉛プレミアムガソリンを使用してください。不適切な燃料はエンジン内部、スパークプラグや排気系部品の耐久性に影響を与えます。

使用燃料：無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：20L

注 記

指定以外の燃料や不適切な添加剤は、エンジン、燃料装置、触媒装置に損傷をあたえるおそれがあります。

無鉛レギュラーガソリン、粗悪ガソリン、有鉛ガソリン、その他アルコール系の燃料や不必要な添加剤などは入れないでください。

♪アドバイス

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。

そのときは、給油するガソリンスタンドを変えてみてください。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

アクセサリの取り付けや積載について

■ アクセサリについて

＜選び方＞

不適切なアクセサリが取り付けられた場合、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。安全に運転するためにもスズキ純正アクセサリを推奨します。スズキ販売店ではお車に適合したアクセサリの取り付けができますので、装着の際にはスズキ販売店にご相談ください。

アクセサリを選ぶときは、アクセサリの重量も考慮に入れてください。アクセサリによる重量増加は、ライディングの安全だけでなく走行安定性にも影響をおよぼします。

⚠警 告

不適切なアクセサリの取り付けや改造は、操作性に影響を与え、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。次のことをお守りください。

- **運転前に、アクセサリが適切に取り付けられているかを確認してください。**
- **部品やアクセサリは、純正部品もしくはこの車に合わせて作られたものを使用してください。**
- **取付けや使用方法については、アクセサリ付属の説明書に従ってください。**
- **疑問な点がありましたらスズキ販売店にご相談ください。**

＜取り付け方と注意点＞

- カウリング、ウインドシールド、バックレスト、サドルバッグ、トラベルトランクなどの風の影響を受けるアクセサリは、できるだけ低くかつ車体の重心位置が変わらないように取り付けてください。マウントブラケットおよび他の取付金具は強度があり、ゆるみにくいものを使用してください。
- 最低地上高およびバンク角を点検してください。アクセサリが、サスペンションやステアリングなどの作動に影響していないことを確認してください。
- トレーラーやサイドカーを牽引するようには設計されていないため、トレーラーやサイドカーを牽引しないでください。

- ハンドルやフロントフォークにアクセサリを取り付けると、操作性を損なうおそれがあります。重量の増加は操作性を損なうだけでなく、前輪の振れや走行安定性の悪化の原因となります。ハンドルバーやフロントフォークにアクセサリを取り付ける場合は、できるだけ軽く最小限のものにとどめてください。
- アクセサリによっては、正常なライディングポジションが取れなくなり、操縦性を悪化させる原因になります。正常なライディングポジションが取れることを確認してください。
- 電装アクセサリによっては、大きな負荷によってワイヤハーネスが損傷し、運転中にエンジンが停止するなどの危険な状態を引き起こす可能性があります。スズキ純正アクセサリをご使用ください。

■ 積載について

荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。

⚠警 告

過積載や、不適切な積み方は車体のバランスを失う原因になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

この取扱説明書の積載限度および積載のガイドラインに従ってください。

＜積載のガイドライン＞

この車は同乗者を乗せていないときは、リヤシートに小さい荷物をのせることができるように設計されています。荷物をのせる場合には、次のガイドラインに従ってください。

- 荷物をリヤシートに積むときは、荷物をゴムバンドなどでしっかり固定し、積み過ぎないようにしてください。最大積載量は「積載量について」(☞ P.179) 参照してください。
- サドルバッグなどを取り付けて荷物をのせるときは、車体の左右に均等に振り分けて積み、しっかりと固定してください。
- 荷物はできる限り少なくし、車体の中心に近い場所に積んでください。
- 必要に応じてサスペンションの設定を調整してください。(☞ P.167)
- 大きな物や重い積載物は、ハンドルバー、フロントフォーク、リヤフェンダーに取り付けないでください。
- 荷物入れや荷台ボックスを、テールエンドから車体の外に突き出して取り付けないでください。
- テールエンドから車体の外に突き出るものはのせないでください。
- 前後のタイヤとも、適正な空気圧に調整してください。空気圧は「タイヤの空気圧の点検」(☞ P.245) を参照してください。
- 積載方法が悪いと、バランスを失わせ、車の操作性に影響を与えます。荷物をのせているときやアクセサリを取り付けた状態で運転するときは、通常より速度を落として運転してください。

⚠警 告

高温のエキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどに荷物が触れると、荷物や車両の火災の原因となるおそれがあります。

荷物を積むときは、高温になるところに荷物が触れないようにしてください。

⚠警 告

フェアリングとハンドルの間に物を置くと、ハンドル操作に悪影響を与えます。

ハンドル操作を妨げるところに、物を置かないでください。

改造について

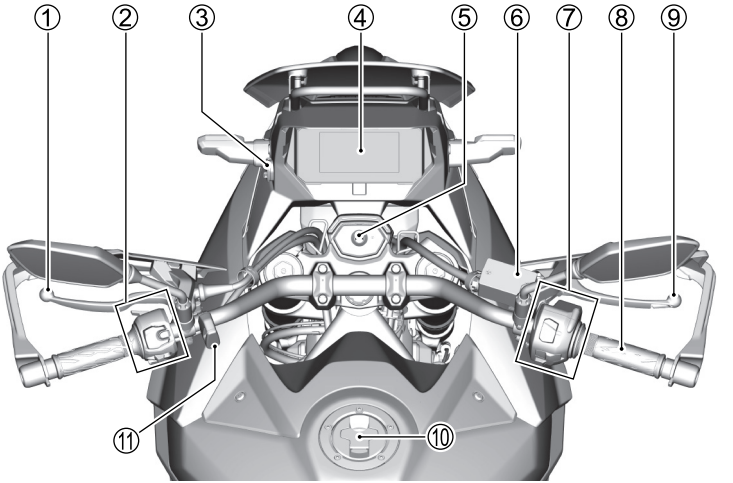
不正改造はやめましょう。
車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。
車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

- この車は、排出ガス規制適合車です。車両には排気ガスを浄化する触媒装置が搭載されています。マフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。
- マフラには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。
- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定･推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。
- お車に荷物やアクセサリを取り付けるときは、積載限度を守ってください。

装備一覧

■ 各部の名称

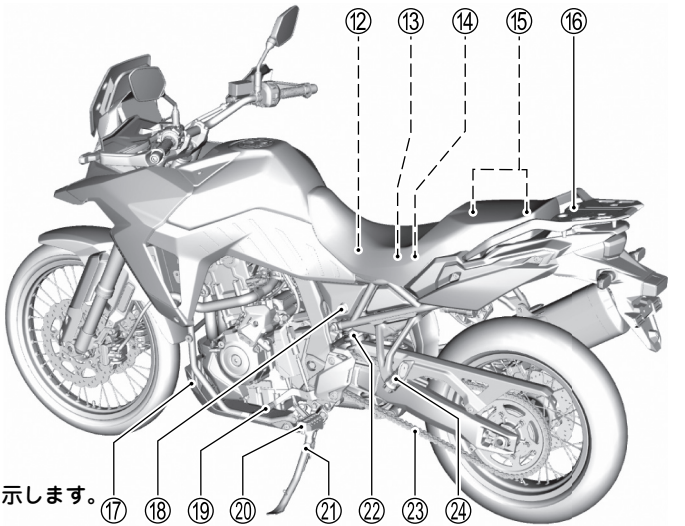
ハンドル周り



ハンドル周り

① クラッチレバー（☞P.228）
② 左ハンドルスイッチ（☞P.39）
③ USB ソケット（☞P.176）
④ メータ（☞P.50）
⑤ メインスイッチ（☞P.131）
⑥ フロントブレーキリザーバタンク（☞P.231）
⑦ 右ハンドルスイッチ（☞P.39）
⑧ スロットルグリップ
⑨ ブレーキレバー（☞P.163）
⑩ フューエルタンクキャップ（☞P.151）
⑪ ヘルメットロック（☞P.178）

車両左側

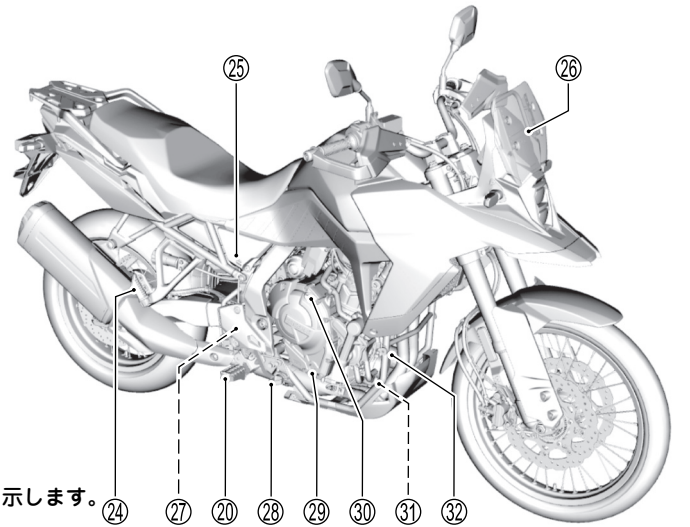


-----部は
見えない部分を示します。

車両左側

⑫ エアクリーナ（☞P.197）
⑬ バッテリ（☞P.191）
⑭ ヒューズ（☞P.251）
⑮ サービス工具（☞P.188）
⑯ リヤキャリア（☞P.179）
⑰ 冷却水リザーバタンク（☞P.216）
⑱ シートロック（☞P.165）
⑲ シフトペダル（☞P.155）（☞P.240）
⑳ フットレスト
㉑ サイドスタンド（☞P.150）
㉒ エアクリーナドレンプラグ（☞P.206）
㉓ ドライブチェーン（☞P.222）
㉔ 後席用フットレスト

車両右側

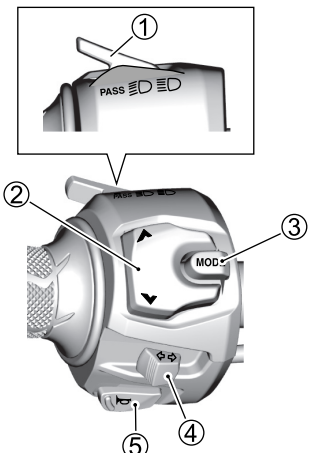


-----部は
見えない部分を示します。

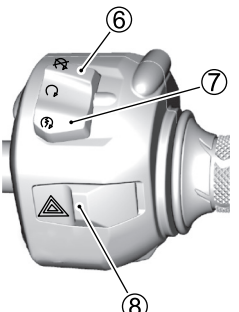
車両右側

㉕ リヤブレーキリザーバタンク（☞P.231）
㉖ ウインドスクリーン（☞P.175）
㉗ リヤブレーキランプスイッチ（☞P.238）
㉘ リヤブレーキペダル（☞P.237）
㉙ エンジンオイル点検窓（☞P.212）
㉚ エンジンオイル注入口（☞P.214）
㉛ エンジンオイルドレンプラグ
㉜ エンジンオイルフィルタ（☞P.207）

ハンドルスイッチ



左ハンドルスイッチ



右ハンドルスイッチ

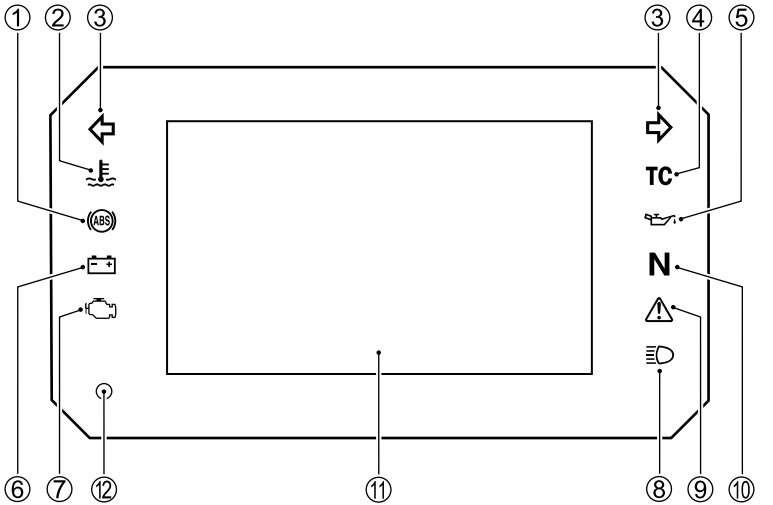
左ハンドルスイッチ

① ディマスイッチ / パッシングスイッチ（☞P.138）
② セレクトスイッチ
③ モードスイッチ
④ ターンシグナルスイッチ（☞P.140）
⑤ ホーンスイッチ（☞P.140）

右ハンドルスイッチ

⑥ エンジンストップスイッチ（☞P.141）
⑦ スタータスイッチ（☞P.142）
⑧ ハザードスイッチ（☞P.143）

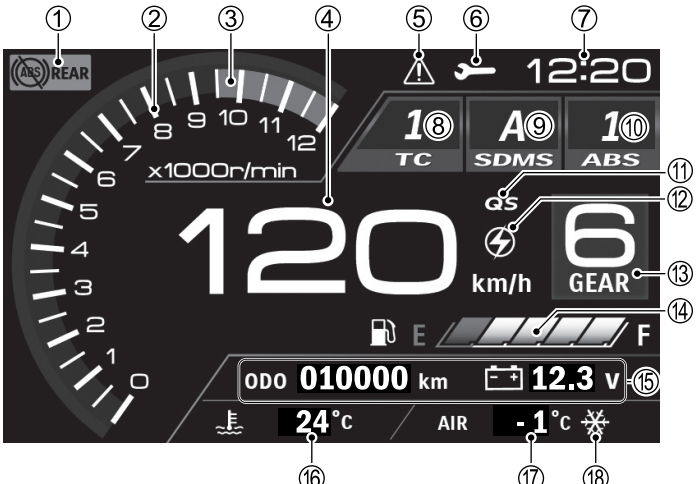
警告灯、インジケータライト



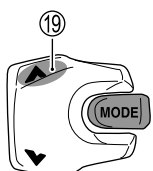
警告灯、インジケータ

① ABS 警告灯（☞P.59）
② 水温警告灯（☞P.64）
③ ターンシグナルインジケータライト（☞P.51）
④ TC インジケータライト（☞P.61）
⑤ 油圧警告灯（☞P.63）
⑥ 充電警告灯（☞P.66）
⑦ エンジン警告灯（MIL）（☞P.52）
⑧ ハイビームインジケータライト（☞P.52）
⑨ マスターウォーニングインジケータライト（☞P.54）
⑩ ニュートラルインジケータライト（☞P.52）
⑪ LCD（液晶ディスプレイ）（☞P.42）
⑫ 光センサ（☞P.66）

LCD(液晶ディスプレイ)
<ライドビュー>

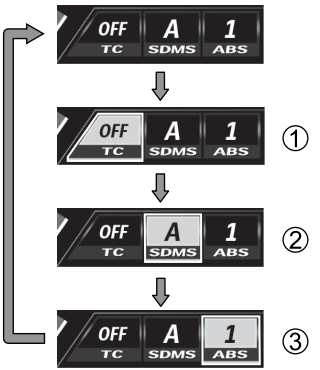


セレクトスイッチ▲ ⑲ を約2秒間長押しするとメニュービューに切り替わります。

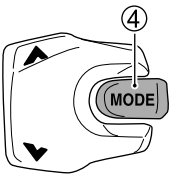


① ABS リアオフインジケータ（☞P.92）
② タコメータ（☞P.68）
③ レッドゾーン（☞P.68）
④ スピードメータ（☞P.67）
⑤ マスターウォーニングインジケータ（☞P.55）
⑥ サービスリマインダ表示（☞P.78）
⑦ 時計（☞P.69）
⑧ トラクションコントロールシステム表示（☞P.82）
⑨ ドライブモード表示（SDMS 表示 ）（☞P.88）
⑩ ABS モード表示（☞P.92）
⑪ クイックシフト表示（☞P.102）
⑫ エンジン回転インジケータ表示（☞P.96）
⑬ ギヤポジション表示（☞P.69）
⑭ フューエルメータ（☞P.70）
⑮ インフォメーションウインドウ（☞P.71）
⑯ 水温計（☞P.65）
⑰ 外気温計（☞P.79）
⑱ フリーズインジケータ（☞P.80）

<ライド設定>



モードスイッチ ④を押すと設定項目が切り替わります。



ライドビューで①～③の項目を設定します。

① **TC** (☞ P.82)
トラクションコントロールシステムのモードを選択します。
(G-mode/OFF/Mode-1/Mode-2/Mode-3)

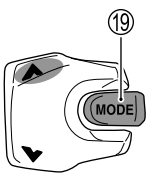
② **SDMS** (☞ P.88)
ドライブモード(SDMS)を選択します。
(A-mode/B-mode/C-mode)

③ **ABS**(☞ P.92)
ABSモードを選択します。
(Rear-OFF/Mode-1/Mode-2)

<メニュービュー>



モードスイッチ ⑲を約2秒間長押しするとライドビューに切り替わります。

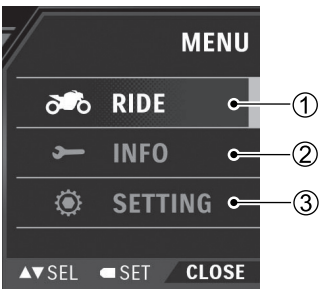


① ABS リアオフインジケータ（☞P.92）
② タコメータ（☞P.68）
③ レッドゾーン（☞P.68）
④ スピードメータ（☞P.67）
⑤ マスターウォーニングインジケータ（☞P.55）
⑥ サービスリマインダ表示（☞P.78）
⑦ 時計（☞P.69）
⑪ クイックシフト表示（☞P.102）
⑫ エンジン回転インジケータ表示（☞P.96）
⑬ ギヤポジション表示（☞P.69）
⑭ フューエルメータ（☞P.70）
⑮ インフォメーションウインドウ（☞P.71）
⑰ 外気温計（☞P.79）
⑱ フリーズインジケータ（☞P.80）

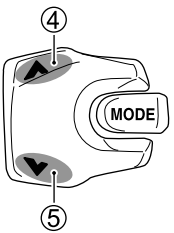
アドバイス

- **車速が 10km/h 未満のときにメニュービューに切替えが可能です。**
- **メニュービューに切替え後、次のときはライドビューに戻ります。**
  - **車速が10km/h以上になったとき**
  - **CLOSEを選択したとき**
  - **MODEスイッチを長押ししたとき**

<メニュー設定>



セレクトスイッチ▲④/▼⑤
で設定項目を切り替えます。



メニュービューで①～③の項目を設定します。

① RIDE

- RPM SET (☞ P.96)
  エンジン回転インジケータの設定をします。
- QS SET (☞ P.102)
  クイックシフトのON/OFF設定をします。

② INFO

- WARNING LIST (☞ P.106)
  不具合または故障の情報を確認します。
- NEXT SERVICE (☞ P.108)
  サービスリマインダの設定値を確認します。

③ SETTING

- BRIGHTNESS (☞ P.112)
  LCD（液晶ディスプレイ）の輝度を設定します。
- DAY / NIGHT (☞ P.115)
  LCD（液晶ディスプレイ）の背景色を設定します。
- UNIT (☞ P.117)
  単位を設定します。
- DATE / TIME (☞ P.121)
  日付と時間を設定します。
- DEFAULT SET (☞ P.128)
  各種設定を初期値に戻します。
- SYSTEM INFO (☞ P.130)
  システム等の情報を確認します。

メータの見かた

⚠警 告

走行中のディスプレイ切替操作は、交通状況が許す場合のみご使用ください。運転者はこの車両を安全に運転する責任があります。

ディスプレイ切替操作時は、交通状況に十分留意し、ご使用ください。

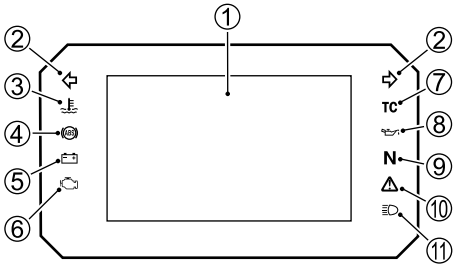
⚠警 告

ディスプレイ切替操作の際、ハンドルスイッチの誤操作は、事故の原因となるおそれがあります。

ディスプレイ切替操作時は、モードの移行および値が意図した設定になっているか確認してから走行してください。

■ メインスイッチをONにしたとき

- LCD(液晶ディスプレイ)① オープニング動作を行います。
- 次の警告灯、インジケータが約3秒間点灯します。
  - ターンシグナルインジケータライト②
  - 水温警告灯③
  - 充電警告灯⑤
  - エンジン警告灯(MIL)⑥
  - ニュートラルインジケータライト⑨
  - マスターウォーニングインジケータライト⑩
  - ハイビームインジケータライト⑪
- 次の警告灯、インジケータが点灯します。
  - ABS 警告灯④
  - TCインジケータライト⑦
  - 油圧警告灯⑧



アドバイス

警告灯、インジケータの消灯する条件は、各警告灯､インジケータの項目を参照してください。

■ ターンシグナルインジケータライト ⇦⇨

右または左のターンシグナルランプが作動すると､ターンシグナルインジケータライトが点滅します。

アドバイス

電気回路に不具合があるときは、通常時より早く点滅して異常があることをお知らせします。

■ ニュートラルインジケータライト N

トランスミッションがニュートラル(ギヤが入っていない)のときに点灯します。

■ ハイビームインジケータライト ≡D

ヘッドランプが上向きのときに点灯します。

■ エンジン警告灯(MIL)

メインスイッチをON にすると、ランプチェックのため3秒間点灯し、その後消灯します。

エンジンの排ガス低減制御装置や電子制御装置に異常があるとき、または失火を検知すると点灯または点滅します。このときは、ポップアップ表示に“FI”を表示します。

“FI”表示については「ポップアップ表示」(☞P.56)を参照してください。

注 記

点灯/点滅したまま走行を継続すると、排ガス低減装置や操作性へ影響を与えます。

エンジン運転中に点滅した場合は、触媒装置が損傷するおそれがありますので速やかに停車し、エンジンを止めてください。やむをえず走行する場合は、スロットルを大きく開けず低速で走行してください。その後、速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

運転中にエンジン警告灯(MIL)が点灯または点滅した場合は、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

■ マスターウォーニング インジケータライト ⚠

メインスイッチを**ON**にすると、ランプチェックのため3秒間点灯し、その後消灯します。

マスターウォーニングインジケータライトは、次の場合に点灯または点滅します。

- エンジン関連の故障
- ABS関連の故障
- ハンドルスイッチの故障
- 転倒したとき

故障関連情報の表示については「ポップアップ表示」（☞P.56）を参照してください。

アドバイス

運転中にマスターウォーニングインジケータライトが点灯または点滅した場合は、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

■ マスターウォーニング インジケータ（白）⚠

次の場合にはステータスバーにマスターウォーニングインジケータ（白）が点灯します。

- データ通信不能
- キーの未認証
- エンジン関連の故障
- ハンドルスイッチの故障
- 転倒したとき

故障関連情報の表示については「ポップアップ表示」（☞P.56）を参照してください。

アドバイス

運転中にマスターウォーニングインジケータ(白)が点灯した場合は、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

■ ポップアップ表示

検知した情報をディスプレイ右側にポップアップ表示します。

① バッテリ電圧低下



② コントローラ間の通信不能



③ イモビライザの未承認



④ エンジン関連の故障



⑤ 車両の転倒



⑥ ハンドルスイッチの故障



⑦ サービスリマインダオープニングアラーム



⑧ サービスリマインダオープニング予告



⑨ 外気温低下



アドバイス

走行する環境（高度、気温など）によっては、ポップアップ表示が機能しない場合があります。

アドバイス

ポップアップ表示した情報は、メニュービューの「WARNING LIST」にて再確認が可能です。詳細は、「WARNING LIST」（☞P.106）を参照してください。

■ ABS 警告灯 (ABS)

- メインスイッチをONにすると点灯し、車速が約10 km/hを超えると消灯します。
- ABS に異常があると、点灯し続けます。点灯している間は、ABSは作動しません。

⚠警 告

ABS警告灯が点灯しているときはABSが作動しません。この状態で急ブレーキをかけるとホイールがロックすることがあります。

速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。

⚠警 告

ABS警告灯が出たまま走行するのは、いざというときにABSが働かずに事故の原因になるおそれがあります。

もし、運転中にABS警告灯が点滅または点灯したときは、安全な場所に停車して、メインスイッチをOFFにしてください。少し時間をおいてからエンジンを始動してABS警告灯を確認します。

- **走行を開始し、ABS 警告灯が消灯すれば正常に機能しています。**
- **走行を開始しても、ABS 警告灯が消灯しない場合はABSが機能していませんので、スズキ販売店で点検を受けてください。**

アドバイス

走行前にエンジンの空ふかしをすると、ABS警告灯が消灯する場合があります。走行前にABS警告灯が消灯したときはメインスイッチを一旦OFFにし、再度ONにしてABS警告灯が点灯することを確認してください。メインスイッチをONにしたときにABS警告灯が点灯しない場合は、速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

通常走行後にエンジンをかけたままメインスタンドを立て、空ふかしをすると、ABS警告灯が点灯する場合があります。この場合は、一旦、メインスイッチをOFFにし、再度メインスイッチをONにしてABS警告灯の点灯を確認してください。その後、約10 km/h以上の速度で走行し、ABS警告灯の消灯を確認してください。ABS警告灯が消灯しない場合はスズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

下記のときに一旦消灯したABS警告灯が一時的に再点灯する場合があります。速度が10 km/hを超えた後に消灯していれば故障ではありません。

- **バッテリ電圧が低下したとき**
- **エンジンストップスイッチなどによるエンジン停止後の再始動時**

■ TCインジケータライト *TC*

TCインジケータライトの作動は、お車の設定によって異なります。設定は「トラクションコントロール システム」（☞P.82）を参照してください。

- メインスイッチをONにすると点灯し、速度が約10 km/h以上になるとトラクションコントロールシステムが作動可能な状態になり消灯します。
- トラクションコントロールシステム作動時は点滅します。
- トラクションコントロールシステムを OFF に設定すると常時点灯します。

TC インジケータライトとエンジン警告灯(MIL)が同時に点灯したときは、安全な場所に停車してメインスイッチをOFFにしてください。少し時間をおいてからエンジンを始動し、10 km/h以上で走行したときのTCインジケータライトとエンジン警告灯(MIL)の点灯状態を確認してください。

- 10 km/h 以上で走行したときに TC インジケータライトが消灯すれば、正しく機能しています。
- 10 km/h 以上で走行しても TC インジケータライトが消灯しない場合は正しく機能していません。消灯しないときは、スズキ販売店にご相談ください。

▲警 告

トラクションコントロールシステムに異常があるときは、TCインジケータライトとエンジン警告灯(MIL)が同時に点灯します。このときには、トラクションコントロールシステムが作動しません。

同時に点灯したときは、トラクションコントロールシステムをOFFに設定して、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ 油圧警告灯

メインスイッチを**ON**にすると油圧警告灯が点灯します。正常時はエンジン始動とともに油圧警告灯は消灯します。
エンジン始動後にエンジン油圧が低下すると、油圧警告灯が点灯します。点灯した場合はエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。(「エンジンオイル量の点検」P.212を参照)

注 記

油圧警告灯が点灯したまま走行するとエンジンやトランスミッションに損傷を与えるおそれがあります。

油圧警告灯が点灯したときは、すぐにエンジンを止めてください。エンジンオイル量を点検し、オイルが不足しているときは、オイルを補充してください。オイル量が適切なのに油圧警告灯が消灯しない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

エンジンを始動した後に油圧警告灯が点灯した状態でスロットルを開いたり走行したりすると、エンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

スロットルを操作する前や走行する前に油圧警告灯が消えていることを確認してください。

■ 水温警告灯

メインスイッチを**ON**にすると、ランプチェックのため約3秒間点灯します。エンジン始動後冷却水の温度が規定値を超えると点灯します。走行中またはアイドリング中に水温警告灯が点灯した場合は、安全な場所に停車してエンジンを停止してください。エンジンが冷めてから冷却水の量を点検してください。

詳細は「オーバーヒートしているときは」（☞P.259）を参照してください。

注 記

水温警告灯が点灯した状態で運転すると、オーバーヒートによりエンジンが損傷するおそれがあります。

水温警告灯が点灯した場合は、エンジンを止めてエンジンを冷やしてください。また、水温警告灯が消灯するまでエンジンをかけないでください。

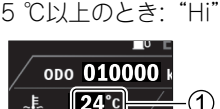
アドバイス

外気温度が高いときに長時間アイドリングすると、水温警告灯が点灯する場合があります。水温警告灯が点灯した場合は、エンジンを止めてエンジンを冷やしてください。

■ 水温計

水温計①は、20 ℃～ 124 ℃の範囲で表示します。20 ℃～ 124 ℃以外では次のように表示します。

- 水温が20 ℃未満のとき:“---”
- 水温が125 ℃以上のとき:“Hi”（点滅）



表示温度が大きく変動する場合がありますが、異常ではありません。120℃を超えて表示する場合は「オーバーヒートしているときは」（☞P.259）を参照してください。

■ 充電警告灯

バッテリ充電系統に異常が発生しているときに点灯します。

アドバイス

運転中に点灯したときは、スズキ販売店にご相談ください。

■ 光センサ

光センサ は、周囲の明るさを検知しLCD（液晶ディスプレイ）を最適な輝度に調整します。背景色をAUTOに選択した場合、設定時の照度に合わせて、WHITE または BLACKのいずれかが選択されます。

- LCD（液晶ディスプレイ）の輝度設定は「BRIGHTNESS」(☞P.112)を参照してください。
- LCD（液晶ディスプレイ）の背景色設定は「DAY / NIGHT」(☞P.115)を参照してください。

アドバイス

- このメータは、周囲の明るさに応じて液晶やメータの照明を自動的に調整するために光センサが設けられています。光センサが覆われていると自動調光が正常に機能しない場合があります。
- 液晶画面が熱くなると、画面が暗くなることがあります。画面温度が下がれば通常の状態に戻ります。暗い画面から回復しない場合は、スズキ販売店にご相談の上、点検を受けてください。

■ スピードメータ

走行速度をkm/h の単位で示します。



ライドビュー



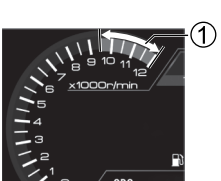
メニュービュー

■ タコメータ

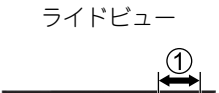
エンジンの回転速度を示します。

レッドゾーン

レッドゾーン ① とは、エンジンの許容回転速度を超えた回転域を示します。エンジン保護のため、指針がレッドゾーンに入らないように運転してください。走行速度が高いときにシフトダウンするとエンジン回転速度が上がり過ぎる場合がありますのでとくに注意してください。



ライドビュー



メニュービュー

■ 時計

時分（１２時間表示）をAM/PM形式で表示します。



時計（調整）の詳細は「DATE / TIME」（☞P.121）を参照してください。

アドバイス

- **時計は微小ですが常時電力を消費しています。長期間（2か月以上）乗らない場合は、バッテリを外しておいてください。**
- **バッテリを再接続すると、日付、時間がリセットしますので再度設定してください。**

■ ギヤポジション表示

ギヤポジションを表示します。ニュートラル（ギヤが入っていない）のときはNを表示します。



アドバイス

- **ポップアップ表示に “CHECK!” が表示されているときは、ギヤポジション表示には数字ではなく“–”が表示します。**
- **ギヤのかみ合いが不十分である場合にも“–”を表示する場合があります。**

■ フューエルメータ

フューエルタンク内のガソリン残量を表示します。

- 満タン時はすべてのセグメントを点灯します。
- 5.0L未満になるとマーク①が点滅します。
- 2.0L未満になるとマーク①とセグメントが点滅します。



①

ガソリン残量	約 2.0L	約 5.0L	満タン
セグメント	点滅		
マーク	点滅	点滅	

注 記

フューエルタンク内のガソリンを使い切る（ガス欠）と触媒装置を損傷することがあります。

ガソリンを使い切る（ガス欠）前に給油してください。

アドバイス

- サイドスタンド状態でメインスイッチをONすると、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。正確に表示させるには車体を垂直にした状態でメインスイッチをONにしてください。
- ⛽ マークが点滅したときはガソリンの残量がほとんど無い状態です。点滅した場合は、すみやかにガソリンを給油してください。

■ インフォメーションウインドウ

メインスイッチをONにしてライドビューを表示します。



設定方法

⚠警 告

走行中にメータやスイッチの操作に注視すると、事故の原因になります。走行中はディスプレイの切替えをしないでください。

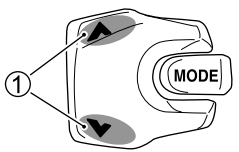
ディスプレイの切替えや設定の確認は停車して行ってください。

アドバイス

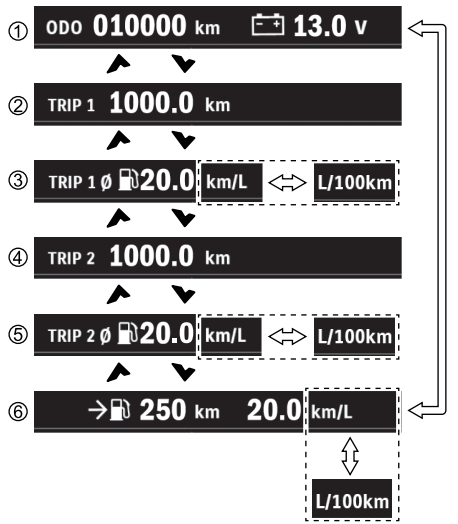
km/LとL/100km、MPG USとMPG IMPの単位を変更できます。

詳細は「UNIT」（☞P.117）を参照してください。

セレクトスイッチ ▲ / ▼ を使用して表示を切り替えます。



次の項目を設定することができます。
① オドメータ / 電圧計
② トリップメータ 1
③ トリップメータ 1 - 平均燃費計 1
④ トリップメータ 2
⑤ トリップメータ 2 - 平均燃費計 2
⑥ 航続可能距離計 / 瞬間燃費計



オドメータ



総走行距離を示します。999,999 kmまで表示します。

アドバイス

オドメータの表示が999,999 kmを超えた場合は、999,999 kmで固定されます。

トリップメータ



リセット後の走行距離を9999.9 まで表示します。

- TRIP1、TRIP2の2つのモードがあります。
- セレクトスイッチ ▼ を約 2 秒間押すとリセットし、0.0を表示します。リセットされるのは表示しているTRIP1またはTRIP2だけで、表示していない方はそのままです。
- リセットすると対応する平均燃費計もリセットします。

アドバイス

9999.9を超えると0.0に戻り、計測を続けます。

平均燃費計









- TRIP1、TRIP2 各々の走行距離に対する燃費を表示します。
  次の範囲で表示します。
  - km/L　　：0.1 ～ 99.9
  - L/100 km ：2.0 ～ 99.9
  - MPG US、MPG IMP ：0.1 ～ 99.9
- トリップメータをリセットすると対応する平均燃費計もリセットします。
- トリップメータが0.0表示のときは、平均燃費計は--.-を表示します。

アドバイス

- **燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なる場合があります。**
- **バッテリ再接続時は、平均燃費が正しく表示されない場合があります。その場合はトリップをリセットすれば正しい値を表示するようになります。**

電圧計

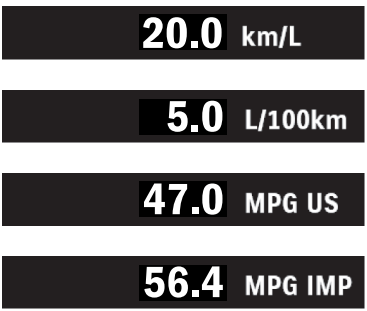


バッテリの電圧を表示します。

アドバイス

- 表示される値は、他の計測器の値と異なる場合があります。
- 12.0 V 以下の電圧を頻繁に表示する場合は、スズキ販売店にご相談ください。

瞬間燃費計



走行中の瞬間燃費を次の範囲で表示します。

- km/L　　：0.1 ～ 99.9
- L/100 km：2.0 ～ 99.9
- MPG US、MPG IMP ：0.1 ～ 99.9

アドバイス

- **車速が 3 km/h 以下のときは燃費測定されません。**
- **燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なる場合があります。**

航続可能距離計



現在の燃料残量で走行できるおよその航続可能距離を表示します。給油すると表示を更新します。ただし、給油量が少ないと、表示を更新できない場合があります。
サイドスタンドで駐車している場合は航続可能距離を更新しません。サイドスタンドを外して、航続可能距離を更新してください。バッテリを外すと航続可能距離計がリセットします。その場合は、一定距離を走行するまでーーーを表示します。

アドバイス

- 航続可能距離は、目安です。表示は実際の走行距離と異なる場合がありますので、早めの給油をおすすめします。
- 航続可能距離を算出するための平均燃費は表示されません。また、表示されているトリップメータの平均燃費とは異なります。

■ サービスリマインダ表示

日付と距離の設定をもとに、次回の点検時期をお知らせします。設定された日付または距離に達すると点灯します。
詳細は「NEXT SERVICE」（☞P.108）を参照してください。

アドバイス

サービスリマインダ表示設定はスズキ販売店にご相談ください。

■ 外気温計

常に周辺の外気温度を表示します。

- 表示温度の範囲　　：－10℃～50℃
- －11℃より低温の場合：“LO”
- 51℃より高温の場合　：“HI”

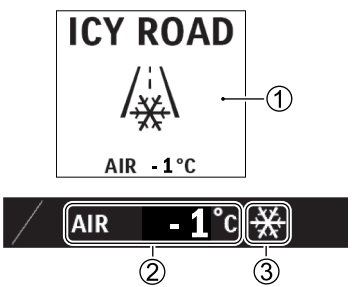


アドバイス

- **温度表示は目安としてください。停止中や低速走行中は正しく表示しないことがあります。**
- **停車中は、エンジンの熱が車両の温度表示に影響を与える場合があります。**

低温時

外気温度が3℃を下回るとディスプレイ上に“ICY ROAD”のポップアップ表示①を表示します。
また、外気温計②が30秒間点滅します。その後は、外気温度が5℃を上回るまでフリーズインジケータ③が点灯します。



アドバイス

- **温度表示は目安としてください。停止中や低速走行中は正しく表示しないことがあります。**
- **ディスプレイ上に“ICY ROAD”のポップアップ表示が出たときは、路面が凍結している可能性があるため、路面の状況に注意して運転してください。**

メ モ

運転アシストシステムの設定

■ トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムとは、スロットルグリップを回しているときにシステムがリヤタイヤの空転を感知すると、エンジン出力を制御してリヤタイヤのグリップ力を回復させる機能です。
トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御しているときは、TCインジケータライトが点滅します。

⚠警 告

指定以外のタイヤやスプロケットを使用すると、トラクションコントロールシステムがエンジン出力を正常に制御することができません。

タイヤやスプロケットは指定のものを使用してください。

⚠警 告

トラクションコントロールシステムは、あらゆる条件下での後輪のスリップ（空転）を完全に制御したり、転倒を防止したりするものではありません。

カーブでのオーバースピードや深すぎるバンク角による横すべり、ブレーキングやエンジンブレーキなどによるリヤタイヤのスリップ（空転）は、制御することができません。技量、天候、路面状況に応じた適切な速度で運転してください。

アドバイス

- トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御すると、エンジン音や排気音が変化することがあります。
- 急加速や悪路走行などで前輪または後輪が地面から離れた場合、トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御することがあります。
- トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御したとき、スロットルグリップを回してもエンジン出力が上がらない場合があります。そのときは、一旦スロットルグリップを完全に戻すと正常な状態に戻ります。

トラクションコントロールシステムは、リヤホイールの空転を少なくするようにエンジン出力を制御します。
次のモードを選択できます。

<OFF>

リヤホイールが空転しても、エンジン出力を制御しません。

<Mode-1～3>

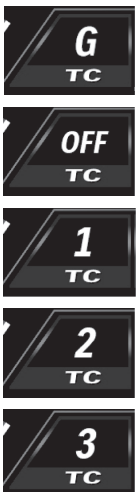
舗装路用のモードです。
感度レベルはMode-1 の感度レベルが最も低く、Mode-3 の感度レベルが最も高く設定されています。

<G-mode>

未舗装路での走行時に通常のモードより駆動力が働くように設定されたモードです。

アドバイス

G-modeは一定以上のリヤホイールの空転を許容するため、舗装路での使用は適していません。



アドバイス

運転する前に、メータ内のトラクションコントロールシステム表示で設定モードを確認してください。

モードの設定

⚠警 告

走行中にメータやスイッチを注視すると事故の原因になります。

モード切替えは回りの安全に十分に注意して行ってください。

アドバイス

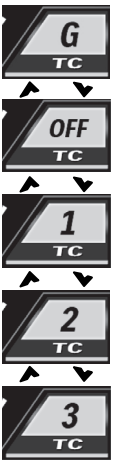
- モードを切り替えられない場合は、モード表示が点滅します。
- 正しく操作してもモードを変更できない場合は安全な場所に停車してメインスイッチを一度OFFにしてください。
  再度メインスイッチを ON にしたときにモードの変更ができない場合は、スズキ販売店に点検を依頼してください。

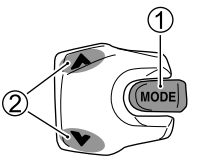
次の手順で設定します。
なお、設定中にメインスイッチをOFFにすると
OFFにしたときに選択していたモードが適用
されます。

1. ライドビューを表示します。
2. モードスイッチ ① を押して“TC”を選
   択します。選択された項目はハイライト表
   示します。



3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ ② を押して
   モードを切り替えます。





アドバイス

- **モードはスロットルを大きく開けていないときに切り替えできます。**
- **モード切替ができないときは、セレクトスイッチ ② を押したときにインジケータが点滅します。**

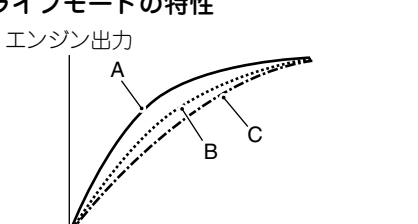
4. モードスイッチ ① を押すと設定を決定し、ハイライト表示を解除します。

■ ドライブモード（SDMS）

高速クルージングや混雑路など様々な走行状況の中で好みに応じたエンジンの出力特性を、A、B、Cのドライブモードから選択することができる装置です。



ドライブモードの特性



＜A-mode＞
最もシャープなスロットルレスポンスであり、すべてのスロットル開度において最大のエンジン出力が得られる特性

＜B-mode＞
A モードより中間のスロットル開度までスロットルレスポンスがマイルドな特性

＜C-mode＞
B モードより高いスロットル開度までスロットルレスポンスがマイルドな特性

モードの設定

⚠警 告

ドライブモードを走行中に操作すると、エンジン速度とエンジン出力が変動し、走行安定性を損なうことがあります。

ドライブモードの操作は、停車して行ってください。

⚠警 告

走行中にメータやスイッチを注視すると事故の原因になります。

モード切り替えは回りの安全に十分に注意して行ってください。

アドバイス

- ドライブモード切替ができないときは、ドライブモード表示が点滅します。
- 正しく操作してもドライブモード切替ができない場合は安全な場所で停車して、メインスイッチを一旦OFFにしてください。再度メインスイッチをONにした後もモード切替ができない場合は、スズキ販売店に点検を依頼してください。

次の手順で設定します。
なお、設定中にメインスイッチをOFFするとOFFにしたときに選択していたモードが適用されます。

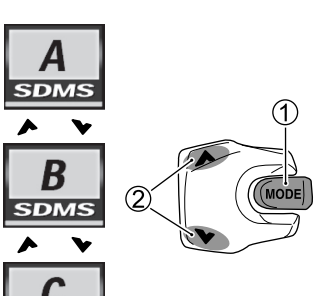
1. ライドビューを表示します。
2. モードスイッチ ① を押して“SDMS”を選択します。選択された項目はハイライト表示します。



3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ ② を押してモードを切り替えます。

アドバイス

- **モードはスロットルを大きく開けていないときに切り替えできます。**
- **モード切替ができないときは、セレクトスイッチ ▲ / ▼ を押したとき、モード表示が点滅します。**



4. モードスイッチ ① を押すと設定を決定し、ハイライト表示を解除します。

■ ABSモード

ABS介入レベルを設定します。

- Rear-OFF：
  リヤブレーキへのABS介入を停止します。
- Mode-1：
  ABS の介入を少なく制御します。
- Mode-2：
  Mode-1よりABSが介入します。

アドバイス

オフロードなどを走行するときには、必要に応じてRear-OFFを選択することでリアブレーキのABS作動をオフにすることができます。



モードの設定

次の状態のときに、ABSモードを切り替えることができます。

- 停車しているとき
- 走行中にスロットルグリップとブレーキを操作していないとき

⚠警 告

走行中にメータやスイッチを注視すると事故の原因になります。

ABSモード切替は回りの安全に十分に注意して行ってください。

次の手順で設定します。
なお、設定中にメインスイッチを OFF にすると OFF にしたときに選択していたモード（Mode-1 またはMode-2）が適用されます。Rear-OFF に設定していた場合はメインスイッチをOFFするたびに Mode-1 に設定されます。

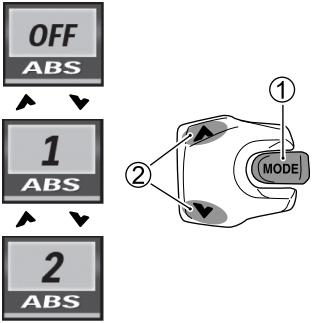
1. ライドビューを表示します。
2. モードスイッチ ① を押して“ABS”を選択します。選択された項目はハイライト表示します。



3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ ② を約 2 秒間長押してモードを切り替えます。

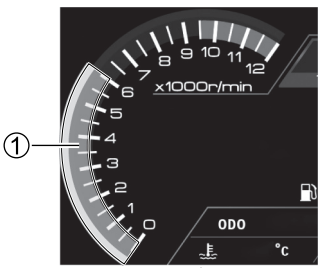
アドバイス

モード切替ができないときは、セレクトスイッチ ▲ / ▼ を押したとき、モード表示が点滅します。


OFF
ABS
1
ABS
2
ABS
①
②
MODE

■ エンジン回転インジケータ表示

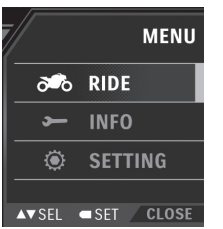
ON/OFF切り替えとタコメータバー ①が点滅するエンジン回転速度を設定します。



ライドビュー

メニュービュー
例：6,000r/min

1. メニュービューを表示します。
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “RIDE” を選択してモードスイッチを押します。



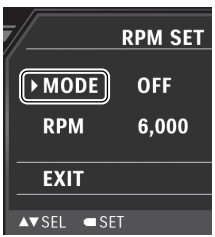
3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “RPM SET” を選択してモードスイッチを押します。



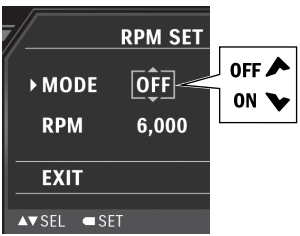
- MODE 設定：ON/OFF切替（☞ P.97）
- RPM 設定：エンジン回転速度設定（☞ P.100）

MODE設定

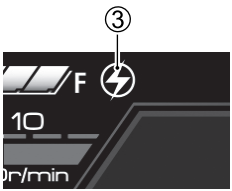
1. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “MODE” を選択してモードスイッチを押します。



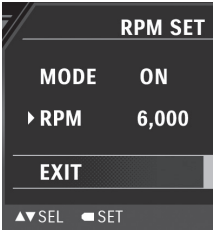
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “ON” または “OFF”を選択してモードスイッチを押すと確定します。



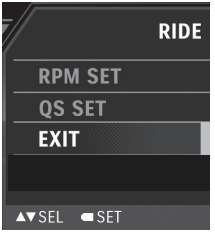
3. “ON” で確定するとエンジン回転インジケータ表示③が点灯します。



4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “EXIT” を選択してモードスイッチを押すと前の画面に戻ります。

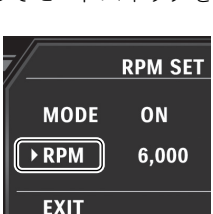


5. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “EXIT” を選択してモードスイッチを押すとメニュー画面に戻ります。

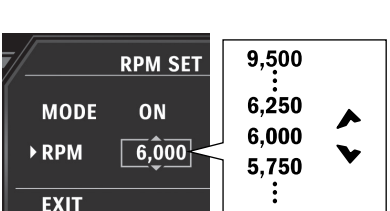


RPM設定

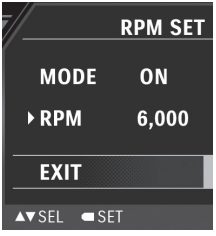
1. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“MODE”を選択してモードスイッチを押します。



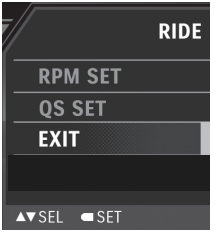
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ でエンジン回転速度を切り替えてモードスイッチを押すと確定します。



3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “EXIT” を選択してモードスイッチを押すと前の画面に戻ります。



4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “EXIT” を選択してモードスイッチを押すとメニュー画面に戻ります。



■ クイックシフト(QS)

アドバイス

クイックシフトを使用した走りかたの詳細はクイックシフトの操作方法（☞P.161）をご覧ください。

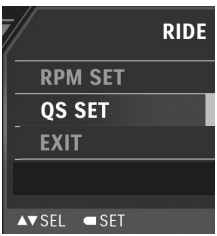
システム設定

システムのON/OFFを切り替えます。
“ON”に設定すると、ギヤチェンジの際、スロットルグリップおよびクラッチレバーの操作が不要になります。

1. メニュービューを表示します。
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “RIDE” を選択してモードスイッチを押します。



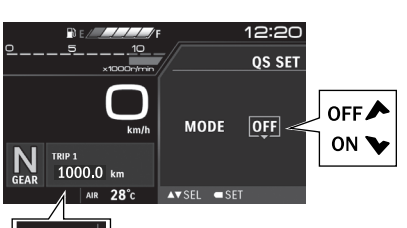
3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “QS SET” を選択してモードスイッチを押します。



4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “ON” または “OFF” を選択します。“ON” を選択するとクイックシフトインジケータ① が点灯します。

アドバイス

変更できない状態のときは、SELECTスイッチを押すと “ON” または “OFF” が点滅します。



5. モードスイッチを押すと前の画面に戻ります。

6. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “EXIT” を選択してモードスイッチを押すとメニュー画面に戻ります。



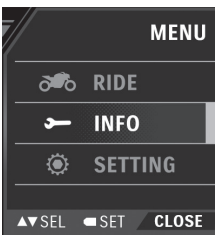
メ モ

インフォメーションの設定

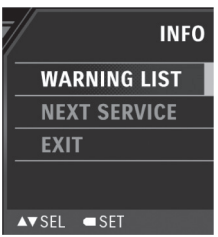
■ WARNING LIST

現在、車両で起きている不具合または故障の情報を確認します。WARNING LISTは、不具合が発生しているときのみ選択できます。

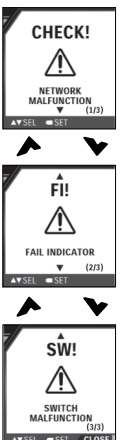
1. メニュービューを表示します。
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ ②で“INFO”を選択してモードスイッチ①を押します。

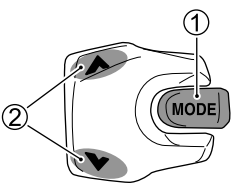


3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ ②で“WARNING LIST”を選択してモードスイッチ①を押します。



4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ ②で 不具合または故障の情報を確認します。





5. “CLOSE”を選択してモードスイッチ①を押すと前の画面に戻ります。

■ NEXT SERVICE

日付と距離の設定をもとに、点検表示によって次回の点検時期をお知らせします。

⚠警 告

サービスリマインダ表示が点灯したまま乗り続けると、車両に悪影響を与え、故障の原因になるおそれがあります。

点灯したときは、速やかに点検整備を受け、スズキ販売店でサービスリマインダ表示の再設定を行ってください。

アドバイス

サービスリマインダの設定はスズキ販売店にご相談ください。

<オープニング予告>

メインスイッチを**ON**にすると、設定された日付および距離に対して、残り1か月、もしくは、残り1,000 kmに達したときに、点検時期の予告を3秒間表示します。



例 : 距離条件が成立した場合



例 : 日付と距離条件が成立した場合

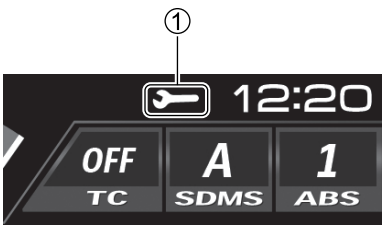
<オープニングアラーム>

サービスリマインダ表示が点灯したとき、メインスイッチを**ON**にすると、3秒間アラーム表示をします。



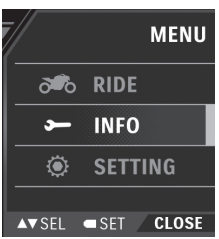
＜サービスリマインダ表示の点灯時＞

- 設定された日付もしくは距離に達すると、マーク ①を表示します。
- 距離と日付のどちらかが先に到達しても、距離は– km、日付は設定された日付を表示します。



＜サービスリマインダの設定値（日付・距離）の確認＞

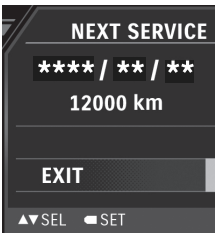
1. メニュービューを表示します。
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “INFO” を選択してモードスイッチを押します。



3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “NEXT SERVICE” を選択してモードスイッチを押します。



4. 設定した日付と距離が表示されます。



5. モードスイッチを押すと前の画面に戻ります。

● 工場出荷時の設定（日付・距離）
- “----.--.--” 日付（年、月、日）
- 1,000 km

ディスプレイの設定

■ BRIGHTNESS

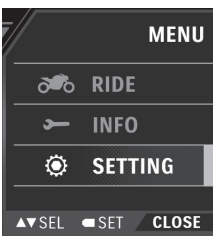
メータディスプレイの輝度を“BRIGHT”（明色）、“MEDIUM”（中間色）、“DARK”（暗色）の設定から選択します。

⚠警 告

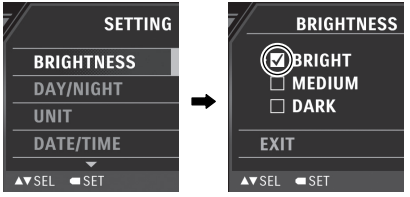
メータディスプレイの輝度は周辺の明るさに合わせて光センサによって変化します。光センサをシールなどでかくすと明るい場所でメータ表示が読み取れなくなり、事故の原因になるおそれがあります。

光センサおよび周辺にシールを貼ったり、光を遮るものを置いたりしないでください。

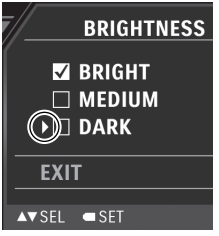
1. メニュービューを表示します。
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“SETTING”を選択してモードスイッチを押します。



3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“BRIGHTNESS”を選択してモードスイッチを押すと設定画面に切り替わります。チェックマーク☑のところが現在の設定です。



4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ でマーク▶を移動してBRIGHT(明色)、MEDIUM(中間色)、DARK(暗色) のいずれかを選択します。



例：DARK

5. モードスイッチを押すとチェックマーク☑が移動し設定が確定します。



例：DARK

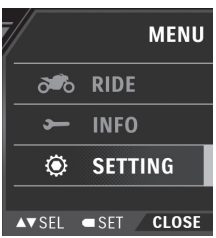
6. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “EXIT” を選択してモードスイッチを押すと前の画面に戻ります。



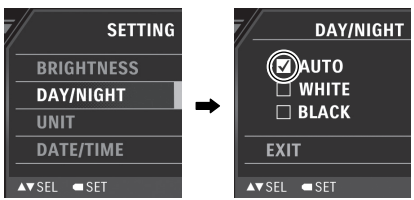
■ DAY / NIGHT

メータディスプレイの背景色をAUTO（自動），WHITE（デイモード/白），BLACK（ナイトモード/黒)の3つの設定から選択します。

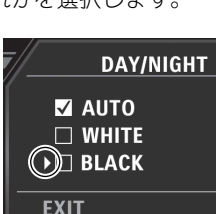
1. メニュービューを表示します。
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“SETTING”を選択してモードスイッチを押します。



3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“DAY/NIGHT” を選択してモードスイッチを押すと設定画面に切り替わります。チェックマーク☑のところが現在の設定です。



4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ でマーク▶を移動してAUTO（自動）、WHITE（デイモード/白）、BLACK（ナイトモード/黒）のいずれかを選択します。



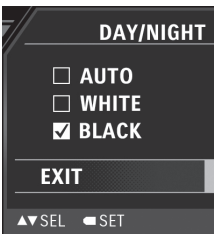
例：BLACK

5. モードスイッチを押すとチェックマーク☑が移動し設定が確定します。



例：BLACK

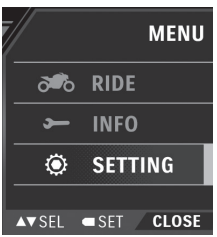
6. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “EXIT” を選択してモードスイッチを押すと前の画面に戻ります。



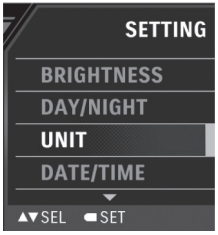
■ UNIT

燃費、外気温および水温の単位を次の手順で設定します。

1. メニュービューを表示します。
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “SETTING” を選択してモードスイッチを押します。

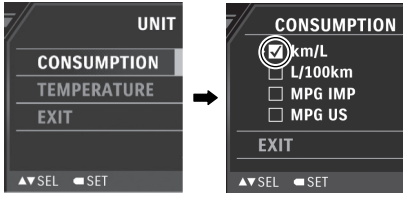


3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “UNIT” を選択してモードスイッチを押します。

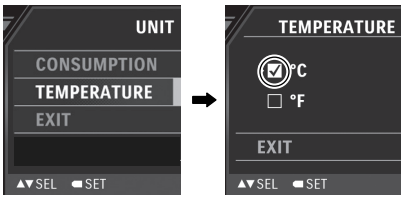


4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で設定する項目を選択してモードスイッチを押すと設定画面に切り替わります。チェックマーク ☑ のところが現在の設定です。

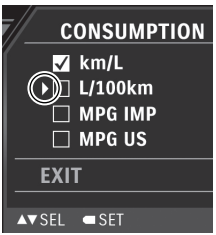
● CONSUMPTION



● TEMPERATURE



5. セレクトスイッチ ▲ / ▼ でマーク ▶ を移動して単位を選択します。



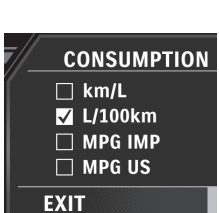
例：CONSUMPTION (L/100km)

6. モードスイッチを押すとチェックマーク☑が移動し設定が確定します。



例：CONSUMPTION (L/100km)

7. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “EXIT” を選択してモードスイッチを押すと前の画面に戻ります。



例：CONSUMPTION (L/100km)

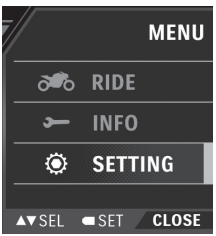
■ DATE/TIME

年月日の表示パターンや日付と時刻を次の手順で設定します。

アドバイス

バッテリの接続を外したときは日付と時刻の再設定が必要になります。

1. メニュービューを表示します。
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“SETTING”を選択してモードスイッチを押します。



3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“DATE / TIME”を選択してモードスイッチを押します。



4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で設定する項目を選択してモードスイッチを押すと確定します。“EXIT”で確定すると前の画面に戻ります。



DATE FORMAT（日付表示）の設定

年、月、日の表示順序は、次の3パターンから選択します。

- MM/DD/YYYY （月、日、年）
- YYYY/MM/DD （年、月、日）
- DD.MM.YYYY （日、月、年）

1. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “DATE FORMAT”を選択してモードスイッチを押すと設定画面に切り替わります。チェックマーク☑のところが現在の設定です。



2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ でマーク▶を移動して表示パターンを選択します。



例：YYYY/MM/DD

3. モードスイッチを押すとチェックマーク☑が移動し設定が確定します。



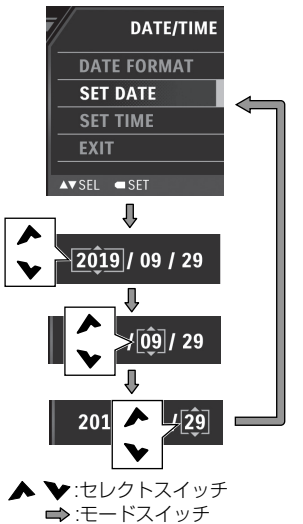
例：YYYY/MM/DD

4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で “EXIT” を選択してモードスイッチを押すと前の画面に戻ります。



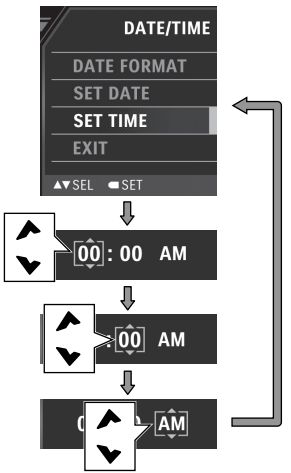
SET DATE（日付）の設定

1. “SET DATE”を選択してモードスイッチを押すと“年”の設定画面に切り替わります
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“年”を合わせます。
3. モードスイッチを押すと “月” の設定画面に切り替わります。
4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“月”を合わせます。
5. モードスイッチを押すと “日” の設定画面に切り替わります。
6. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“日”を合わせます。
7. モードスイッチを押すと“SET DATE”選択画面に戻ります。



SET TIME（時刻）の設定

1. “SET　TIME”を選択してモードスイッチ を押すと“時”の設定画面に切り替わります。
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“時”を合わせます。
3. モードスイッチを押すと “分” の設定画面に切り替わります。
4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“分”を合わせます。
5. モードスイッチを押すと “AM/PM” の設定画面に切り替わります。
6. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で　“AM/PM”を合わせます。
7. モードスイッチを押すと、“SET TIME” 選択画面に戻ります。



▲ ▼:セレクトスイッチ
⇨:モードスイッチ

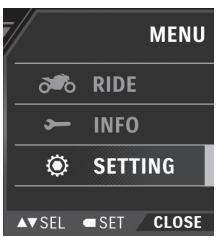
■ DEFAULT SET

次の項目を初期設定値に戻すことができます。

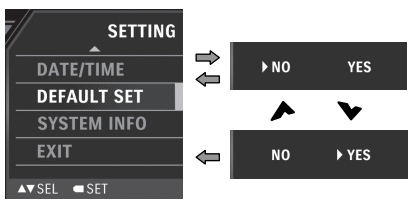
項目		初期設定値
BRIGHTNESS		MEDIUM（中間色）
DAY/NIGHT		BLACK（ナイトモード/黒）
RPM SET	MODE	ON
	RPM	9,500 r/min
UNIT	CONSUMPTION	km/L
	TEMPERATURE	℃

初期設定値へ戻す

1. メニュービューを表示します。
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“SETTING”を選択してモードスイッチを押します。



3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“DEFAULT SET”を選選択してモードスイッチを押すと設定画面に切り替わります。
4. セレクトスイッチで “YES” / “NO”を選択します。
5. モードスイッチを押すと、前の画面に戻ります。

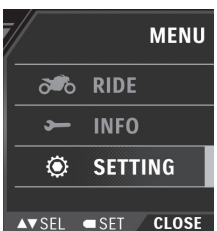


▲ ▼:セレクトスイッチ
➡:モードスイッチ

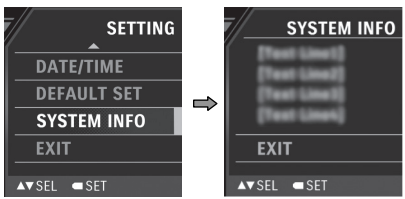
■ SYSTEM INFO

ソフトウェアバージョンに関する情報を表示します。

1. メニュービューを表示します。
2. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“SETTING”を選択してモードスイッチを押します。



3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“SYSTEM INFO”を選択してモードスイッチを押すと表示します。

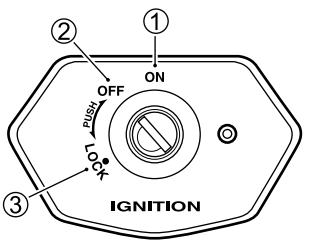


4. セレクトスイッチ ▲ / ▼ で“EXIT”を選択してモードスイッチを押すと前の画面に戻ります。

メインスイッチ

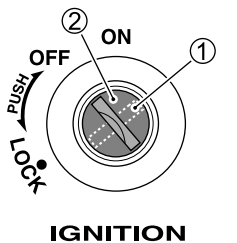
■ ポジション

メインスイッチにはON①・OFF②・LOCK③の3つのポジションがあります。

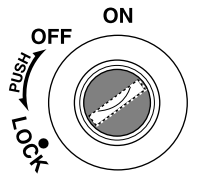


アドバイス

● メインスイッチのキー穴 ① をカバーするリッド②を設けています。



● リッド穴がずれているときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。



IGNITION

⚠警 告

衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。また、車両の異常により火災が発生したり、リヤホイールなどの回転する部品に巻き込まれたりする可能性があります。

転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、すべての装置を停止してください。転倒したときに、見えない部分に損傷を受けている可能性があるので、スズキ販売店にて点検を受けてください。

⚠警 告

走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながることがあります。

キーは停車後、操作してください。

注 記

走行中にメインスイッチを操作するとエンジンが円滑に回転しなくなり、エンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

メインスイッチは走行中に操作しないでください。

OFF

- エンジンが停止します。
- ライト類が消灯します。
- キーが抜けます。

ON

- エンジンの始動・走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
  - ヘッドランプ
  - テールランプ
  - ポジションランプ
  - ライセンスランプ
- キーが抜けません。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が点灯しません。
- キーが抜けます。

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。チェーンロックなどの併用もおすすめします。

＜ハンドルロックのかけかた＞

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押し込みながらOFFからLOCKまで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス

- ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。
- ロックがかかりにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回してください。

＜ハンドルロックの外しかた＞

キーを差し込み、押しながらOFFまで回します。

警告

ハンドルをロックしたまま車を動かすと、バランスを失って転倒する原因になります。

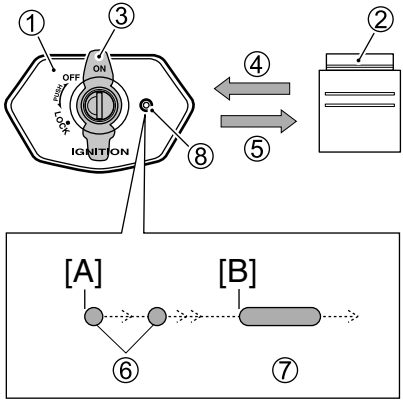
サイドスタンドを出してからハンドルをロックしてください。

アドバイス

- 走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。
- メインスイッチのキー穴をカバーするリッドを設けています。リッド穴がずれているときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。

■ イモビライザ

差し込まれたキーのIDが車のECMに登録されているものかどうかを照合し、始動の可否を判定します。
メインスイッチ ① をONにすると、ECM ② はキー ③ に内蔵されているコントローラにID ④ の送信を指令します。（このとき登録されているキーの個数と同じ回数だけインジケータが点滅 ⑥ します）これを受けてキーはID ⑤ を送信、ECMが正しいと判断すると始動可能となりイモビライザ警告灯⑧が2秒間点灯⑦します。



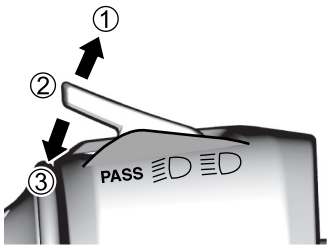
[A]：メインスイッチ ON
[B]：エンジン始動可
⑧：イモビライザ警告灯

♪アドバイス

- イモビライザ警告灯がいつまでも点滅する場合はキーが違っているか、送信異常です。メインスイッチをOFFにしてやり直してください。
- キーは当初2個登録されています。さらに2個まで追加登録が可能です。この登録されているキーの個数と同じ回数だけインジケータが点滅します。
- キーを2つとも紛失してしまうと、ブランクキー 2個とECMまで交換しなければなりません。予備のキーはしっかり保管してください。
- キーを差し込むときに、この車のスペアキーや他の車のイモビライザ対応キーをイモビライザアンテナに近づけるとイモビライザシステムが正常に作動しなくなることがあります。キーホルダにイモビライザ対応のキーを2個以上付けないでください。
- 金属製のもの、磁気を帯びたもの、電波を発信するものはイモビライザの通信に悪影響を与えるため、キーホルダに付けたり、キーに近づけないでください。

ハンドルスイッチ

■ ディマスイッチ / パッシングスイッチ



①：ハイビーム
②：ロービーム
③：パッシング

ディマスイッチ
上向きまたは下向きにヘッドランプの向きを切り替えます。

<ハイビーム“≡D”>
スイッチを前方に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

<ロービーム“≡D”>
スイッチを手前に引くと、ヘッドランプが下向きになります。

パッシングスイッチ“PASS”

スイッチを手前に引いている間、ハイビームが点灯します。スイッチをはなすとロービームにもどります。

アドバイス

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

注 記

ランプの熱によりレンズが溶けたり置いた物が損傷することがあります。

停車中に点灯したヘッドランプやテールランプを物でさえぎったり衣類などを被せないでください。

注 記

ヘッドランプにテープ類を貼ると貼り付けた所がランプの熱で溶けるおそれがあります。

ヘッドランプにテープ類を貼らないでください。

■ ホーンスイッチ

スイッチを押している間、ホーン（警音器）が鳴ります。

■ ターンシグナルスイッチ ⇦⇨

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折 ⇨

スイッチを⇨側にすると、右側ターンシグナルランプが点滅します。解除するにはスイッチを前に押します。

左折 ⇦

スイッチを⇦側にすると、左側ターンシグナルランプが点滅します。解除するにはスイッチを前に押します。

▲警 告

ターンシグナルスイッチは、点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されませんので、使用後は必ずスイッチを前に押して解除してください。

■ エンジンストップスイッチ / スタータスイッチ

エンジンストップスイッチ

転倒などの非常時に、ただちにエンジンを停止させます。エンジンストップスイッチを“⊗”（STOP）側に押すとエンジンが停止します。通常は“Ω”にしておきます。

<Ω>

エンジン関連の電気回路がつながっています。

- エンジンの始動ができます。

<⊗>

エンジン関連の電気回路がつながっていません。

- エンジンが停止します。
- エンジンの始動ができません。

注 記

走行中にエンジンストップスイッチを→ や →→にすると、エンジンが円滑に回転しなくなり、エンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

緊急時を除いて、走行中には使用しないでください。

アドバイス

エンジンストップスイッチでエンジンを停止したときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままにしておくとバッテリあがりの原因になります。

スタータスイッチ“”

スタータスイッチを押すことでスタータモータが回転して、エンジンを始動します。
詳細は「エンジンのかけかた」(P.143)を参照してください。

アドバイス

- エンジンストップスイッチが “” のときはエンジンを始動できません。
- スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチを押すと、スイッチから手を放しても数秒間スタータモータが回り続けます。数秒間経過するか、エンジンが始動するとスタータモータは止まります。

■ ハザードスイッチ ⚠

故障などの非常時に、停車するとき使用します。スイッチを使用すると、すべてのターンシグナルランプが点滅します。

アドバイス

非常時以外は、使用しないでください。エンジン停止状態での使用は、バッテリあがりの原因となります。

エンジンのかけかた

■ エンジンをかける前に

エンジンは、次の手順でかけてください。

1. エンジンストップスイッチが“Ω”になっていることを確認します。
2. メインスイッチをONにします。
3. ニュートラルインジケータライトの点灯を確認します。点灯しないときは、ギヤシフトレバーを操作してニュートラルにします。
4. エンジン警告灯(MIL)の消灯を確認します。
5. スロットルグリップを閉じたまま、スタータスイッチを押します。
6. 走行前にサイドスタンドが完全に格納されているか確認します。詳細は「サイドスタンドインタロック」（☞P.149）を参照してください。

注 記

エンジンの温度上昇によるエンジン本体や車体の損傷を避けるために次のような使いかたをしないでください。

- 長時間のアイドリング
- 不必要な空ふかし
- スロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作

アドバイス

この車は、スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンプッシュするだけでエンジンを始動できます。詳細は「スズキイージースタートシステム」（P.147）を参照してください

エンジンがかかりにくいときは

スタータスイッチを2～3回押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8ほど回し、スタータスイッチ“”を押します。

⚠警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。

排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

注 記

スタータスイッチを5 秒以上押し続けたりすると、消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。

スタータスイッチを5 秒以上押し続けたり、スズキイージースタートシステムを連続で使用したりして、スタータモータを連続して回転させないでください。

注 記

エンジン警告灯(MIL)が点灯したままスタータスイッチを押し続けると、バッテリあがりの原因となります。

エンジン警告灯(MIL)が点灯しているときは、スタータスイッチを押し続けないでください。

注 記

エンジンを始動する前に、ギヤポジション表示とニュートラルインジケータライトの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- ギヤポジション表示がN の表示をしているとき、ニュートラルインジケータライトが点灯していること。
- ギヤポジション表示が(1、2、3、4、5、6)いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータライトが消灯していること。

注 記

エンジンを始動した後, 油圧警告灯が点灯した状態でスロットルを開く, または走行させるとエンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

スロットルを操作する前や走行前には油圧警告灯が消えていることを確認してください。

アドバイス

転倒した場合は、エンジンを止めるシステムがエンジンを止めます。また、同時にマスターウォーニングインジケータライトが点灯します。エンジンを再始動するには、車両を起こした後、メインスイッチを一旦OFF にして、再びONにしてください。マスターウォーニングインジケータライトが消灯すると、エンジンの再始動が可能になります。マスターウォーニングインジケータライトの消灯にはメインスイッチをOFF後、数分かかる場合があります。

■ スズキイージースタートシステム

スタータスイッチをワンプッシュするとエンジンを始動できます。スイッチから手を放してもスタータモータが回り続け、数秒が経過するか、エンジンが始動するとスタータモータは止まります。

- ギヤポジション表示がニュートラルの場合は、クラッチレバーを握らなくてもエンジンを始動することができます。
- ギヤポジション表示がニュートラルではない場合は、クラッチレバーを握ることでエンジンを始動することができます。

サイドスタンドとギヤの位置によりエンジンが始動しない場合があります。詳細は「サイドスタンドインタロック」（☞P.149）を参照してください。

アドバイス

バッテリの状態によっては、スズキイージースタートシステムによるエンジン始動が困難な場合があります。エンジンがかかりにくい場合は、クラッチレバーを握りスタータスイッチを押し続けてエンジンを始動してください。それでも始動しない場合は、バッテリが弱っていますので、バッテリを充電するか交換してください。もしエンジンがかからないときは、スズキ販売店にご相談ください。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（− 10 ℃以下を目安）にあるとき

上記以外はエコ運転のため、エンジン始動後はすみやかに走行を開始してください。

注 記

エンジン始動直後の空ふかしや急発進、急加速は、エンジン故障の原因となります。

暖機運転が必要な場合には、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

注 記

長時間のアイドリングやスロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作は、オーバーヒートの原因となり、エンジンや車体の損傷の原因になります。

■ サイドスタンドインタロック

サイドスタンドを出したままで走行することを防ぐ外し忘れ防止装置です。サイドスタンドの状態によって次のように作動します。

サイドスタンドが出ている場合

- ギヤが入っているときはエンジンを始動できません。（ニュートラルを除く）
- エンジン回転中にギヤを入れるとエンジンは停止します。

サイドスタンドが出ていない場合

エンジン回転中に、ギヤが入っている状態でサイドスタンドを立てるとエンジンは停止します。

⚠警 告

走行中にサイドスタンドを出すと、エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

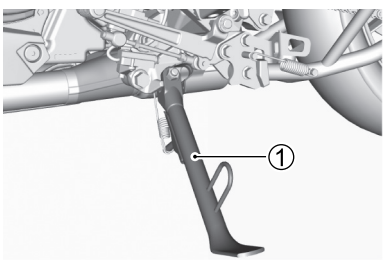
アドバイス

- **サイドスタンドを完全に外していないとき、シフトペダルを操作するとエンジンが停止します。**
- **サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、注油してください。**

駐車のしかた

■ サイドスタンド

サイドスタンド①を出すときは、スタンドの端に右足をかけていっぱいに引き出します。
サイドスタンドインタロックの詳細は「サイドスタンドインタロック」（☞P.149）を参照してください。



▲警 告

サイドスタンドが完全に収納されていない状態で運転すると，左旋回時に事故につながるおそれがあります。

走行前に，サイドスタンドインタロック機能の作動をチェックしてください。発進する前にサイドスタンドを確実に収納してください。

アドバイス

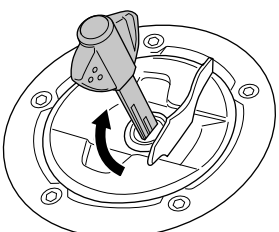
駐車するときは、できるだけ固い平坦な路面に駐車してください。やむをえず傾斜地に駐車する場合は，お車の正面を坂の上に向けて停め、タイヤを固定するためにギヤを1速に入れてください。

ガソリンの給油

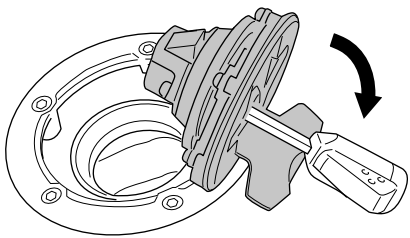
■ 給油の手順

次の手順でガソリンを給油します。

1. フューエルタンクキャップのキーカバーを開けます。
2. キーを差し込み、右に回してロックを解除します。



3. キャップを開けます。



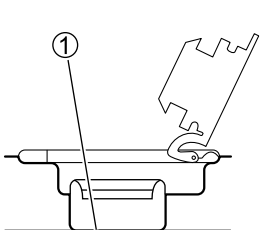
4. ガソリンを給油します。
キャップからガソリンがにじみ出ることがあるため、給油口の下端①以上入れないでください。

注 記

規定以上の量を給油すると、エンジンの不調や始動不良が起こることがあります。

給油口下端以上は、給油しないでください。

指定燃料：無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：20L



②ガソリン

5. キャップを押し下げ、キーを左へ回して抜きます。キャップがロックされないとキーは抜けません。

⚠警 告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- **ガソリンを給油するときは、エンジンを止めて火気を近づけないでください。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。**
- **給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。**
- **給油後、フューエルタンクキャップをカチッと音がするまで確実に閉めてください。**
- **こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。**

注 記

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。

この場合は、給油するガソリンスタンドを変えてみることをおすすめします。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

ガソリンは、アルコールを含んでいるため塗装に損傷をあたえます。

給油するときは、外装に付かない様に注意してください。外装に付いたときは、すぐにふき取ってください。

注 記

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他アルコール系の燃料、軽油など、また不適切な添加剤は、エンジン、触媒装置、燃料系統を損傷する原因となります。

必ず無鉛ガソリンを使用してください。

注 記

給油時など、フューエルタンクに砂ぼこりや水などの異物が混入すると、フューエルポンプの詰まりの原因となるおそれがあります。

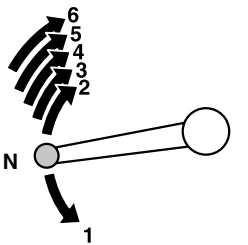
給油するときは、タンク内に異物が入らないように注意してください。

シフトペダル

■ シフトペダルについて

トランスミッションは6段変速でシフトペダルを図のように操作します。

6速リターン式で、ニュートラルは1速と2速の中間にあります。



アドバイス

トランスミッションがニュートラルにあるときは、緑のニュートラルインジケータライトが点灯します。ニュートラルインジケータライトが点灯していても、クラッチレバーはゆっくり操作して確実にニュートラルに入っていることを確認してください。

ギヤ	適応速度（km/h）
1速	0 ～ 40
2速	15 ～ 60
3速	30 ～ 80
4速	40 ～
5速	45 ～
6速	50 ～

■ シフトペダルの操作方法

トランスミッションは、エンジンの出力に合わせて効率よく運転できるように設計されています。運転するときには、運転の状況に合わせてギヤチェンジしてください。

なお、クラッチの摩耗の原因になるため、半クラッチを車両速度の調節のために使わないでください。

減速時には、エンジン回転速度に合わせて、シフトダウンしましょう。

1. サイドスタンドを外します。
2. クラッチレバーを完全に握り、ギヤシフトレバーを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。
3. 車のスピードに応じてギヤを切り替えます。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行ないます。
   シフトペダル操作は、つま先で軽く行ない、ペダルにコツンと感じるまで確実に行なってください。

⚠警 告

コーナリング中のシフトダウンは、リヤタイヤのスリップや走行の不安定につながるおそれがあります。

コーナリングを始める前に、スピードを落としてシフトダウンしてください。

⚠警 告

高いエンジン回転速度でシフトダウンを行うと、次の原因になります。シフトダウンをするときは、スピードを落としてください。

- 強いエンジンブレーキで走行安定性を失ったことによる尻振りなど
- エンジン回転速度が上がりすぎることによるエンジン、トランスミッションの故障

注 記

エンジンが異常な高温になると、クラッチの切れが悪くなることがあります。

安全な場所で、エンジンを停止して冷やしてください。

注 記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

上り坂などでは、ブレーキを使用してください。

注 記

次のような操作や走行は、エンジンの損傷の原因となりますので行わないでください。

- クラッチレバーを確実に握らないギヤチェンジ操作
- 無理なギヤチェンジ操作
- シフトペダルに足を乗せたままの走行

アドバイス

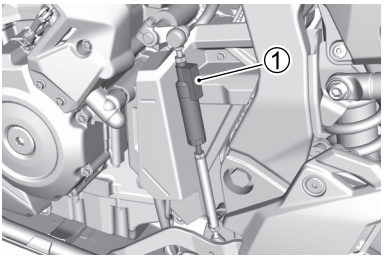
- ギヤチェンジ操作はコツンと感じるまで確実に行ってください。
- むやみにエンジン回転速度を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。
- スピードは控えめにしましょう。
- 走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。
- エンジン回転速度がレッドゾーンに入らないよう注意して走行してください。
- 空ふかしや、1速／2速での急加速はレッドゾーンに入りやすいので、特に注意してください。
- レッドゾーンに入ってしまった場合は、速やかにスロットルをゆるめ、エンジン回転速度を下げてください。
- 走行中にニュートラルギヤに入ったときは、エンジンや駆動系を保護するためにエンジン回転速度リミッタが作動し、エンジン回転速度を制御する場合があります。

「感情的な走りはいけません 心のブレーキを忘れずに！」

クイックシフトとは

クイックシフトとは、走行中のギヤチェンジ操作をアシストする機能です。

メータの設定でクイックシフトを設定すると、走行中にスロットルグリップやクラッチレバーを操作せずにギヤチェンジができます。なお、停車状態からの発進時やギヤが入っている状態で停車している時は、クラッチレバーを握る必要があります。



①ギヤシフトセンサ

注 記

次の取扱い方法を守らないときは、ギヤシフトセンサや関連部品の破損の原因になりますのでご注意ください。

- ギヤシフトセンサを分解しないでください。
- ギヤシフトセンサや関連部品にパーツクリーナやガソリンなどの有機溶剤が、かからないようにしてください。
- ギヤシフトセンサや周辺に高圧の水を当てないでください。
- ギアシフト関連部品を変更、改造した場合、クイックシフト が正常に動作しないことがあります。

注 記

クイックシフトは、オートマチック・トランスミッションのような自動的にギヤチェンジを行う機能ではありません。低いギヤでエンジン回転速度が高すぎる運転などは、トランスミッションなどに負荷をかける原因になります。

エンジン回転速度や車速に合わせて、ご自身でギヤチェンジを行ってください。

アドバイス

クイックシフトはあらゆるギヤチェンジ動作に対応できるものではありません。例えば次のような場合ではクイックシフトは作動しません。

- **シフトダウンしたときにエンジン回転速度がレッドゾーンに入るようなとき**
- **クラッチレバーを握ってギヤチェンジ操作をしたとき**
- **リヤタイヤが過大に空転しているとき**

クイックシフトの操作方法

1. メータのクイックシフト（QS）の設定を、“ON”に設定します。詳細は「クイックシフト(QS)」(☞P.102)を参照してください。
2. クラッチレバーを完全に握り、ギヤを1速に入れ静かに発進します。
3. 発進後、ギヤチェンジを行うときは、クラッチレバーを握らずにシフトペダルを操作します。
   - クイックシフトの ON/OFF 設定に関わらずシフトペダルの操作方法は変わりません。コツンと感じるまでシフトペダルを確実に操作してください。

- ギヤチェンジの際は、車がそのときの状況に応じてエンジン回転速度の調整を行うため、スロットルグリップを操作する必要はありません。
- クイックシフトは、次のエンジン回転速度で作動します。
  - 2,000 r/min以上(シフトアップ)
  - 1,700 r/min以上(シフトダウン)
- 連続してギヤチェンジを行うときもシフトペダル操作は一段ずつ正しく行う必要があります。
- スロットル開度を一定に保った状態でシフトペダル操作を行うとスムーズにギヤチェンジすることができます。

4. 停車するときは、クラッチレバーを握って停車します。

注 記

以下のときにクラッチレバー操作をせずにギヤチェンジを行うと、エンジンや駆動系に損傷を与える恐れがあります。以下のときはクラッチレバーを操作してください。

- **クイックシフト設定がOFFのとき**
- **エンジン回転速度が規定より低いとき**

アドバイス

エンジン温度が低いときにクイックシフトのシフトダウンが作動しないことがあります。このような場合は、エンジン暖機後に操作してください。それでもクイックシフトのシフトダウンが作動しない場合はスズキ販売店にご連絡ください。

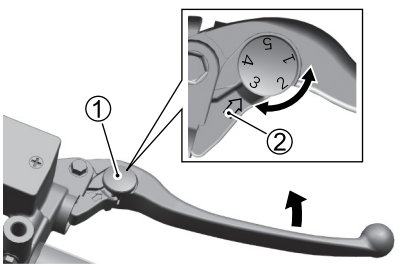
ブレーキレバー

■ ブレーキレバーについて

ブレーキレバーを操作すると、フロントブレーキが作動し、ブレーキランプが点灯します。ブレーキレバーとグリップとの間隔は、5段階から選択できます。

■ ブレーキレバーの調整

1. ブレーキレバーを前方に押し、アジャスタ①を回します。
2. アジャスタの数字を「合わせマーク」②にしっかりと合わせます。



アドバイス

- **調整は、レバーの突起とアジャスタの凹みをかみ合わせてください。**
- **工場出荷状態では、3段の位置に調整されています。**

▲警 告

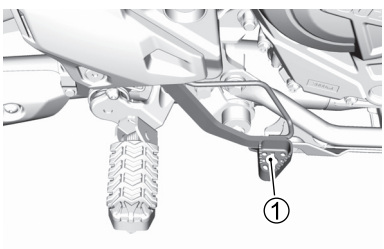
走行中にブレーキレバーの位置を調整することは、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

ブレーキレバーの位置調整は停車中に行ってください。

リヤブレーキペダル

■ リヤブレーキペダルについて

リヤブレーキペダル①を踏み込むとリヤブレーキが作動します。同時にブレーキランプが点灯します。

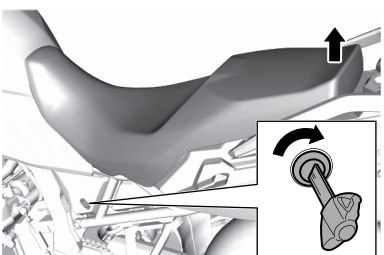


シート

■ シートとシートロック

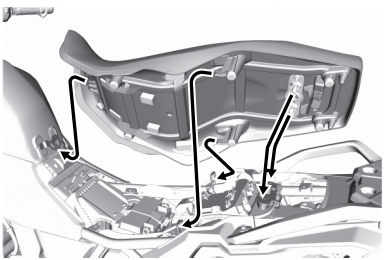
シートの外しかた

1. シートロックにキーを差し込み、右に回してロックを解除します。
2. シートの後部を持ち上げ、後方に引いてシートを外します。



シートの取り付けかた

1. シート裏側のフックを車体側に差し込みます。
2. シートの後部を押し下げ、ロックします。



▲警 告

シートが正しく取付けられていないとシートが動いて運転に支障をきたすおそれがあります。

シートは正しい位置に確実に締め付けてください。

アドバイス

- **シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。**
- **シートの下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。**

サスペンション

■ サスペンションについて

フロントフォークおよびリヤショックアブソーバの標準設定は、お車のスピードや荷重の変化などの多様な運転状況に対応できるように設定されています。
なお、サスペンション設定はお好みに合わせて微調整できます。

注 記

無理にアジャスタを回すとサスペンションが損傷するおそれがあります。

限界を超えてアジャスタを回さないでください。

■ フロントフォーク

⚠警 告

左右で異なるサスペンション設定は、操縦性を低下させ走行安定性を損なうことがあります。

左右のフロントフォークは同一の設定に調整してください。

注 記

フロントフォークが汚れたまま調整すると、アジャスタに砂が噛み込んだり、オイルシールの損傷によりオイル漏れの原因になったりします。

調整前に洗浄し、砂などの汚れを十分に落としてください。

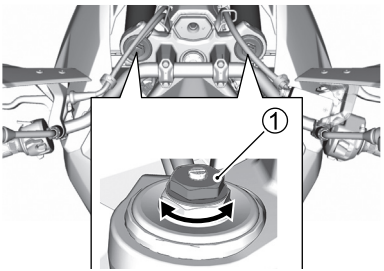
スプリングの調整

路面の状態や乗車人数など荷重に応じてスプリングの強さを調整します。スプリングの強さはアジャスタ①を回して調整します。

- 時計回り：強くする
- 反時計回り：弱くする

標準設定にするにはアジャスタ①を次のように操作します。

1. 反時計回りに止まる位置まで回します。
2. 時計回りに6回転します。



アドバイス

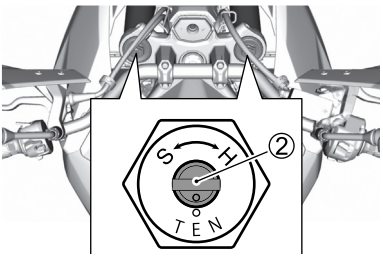
左右のフロントフォークとも、同じ位置に調整してください。

減衰力の調整

伸び側および圧側の減衰力は、それぞれのアジャスタを回すことで個別に調整できます。

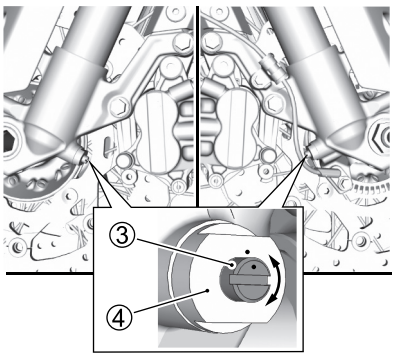
- 伸側減衰力アジャスタ　②　は、フロントフォークの上部に配置されています。
- 圧側減衰力アジャスタ　③　は、フロントフォークの底部に配置されています。

減衰力の調整は，まず標準設定にしてからアジャスタで好みの位置に調整します。



アドバイス

- **フロントフォークのオイル漏れが発生するため、アジャスタベース④をゆるめないでください。**
- **左右のフロントフォークとも､同じ位置に調整してください。**



＜伸側減衰力標準設定＞

標準位置は、アジャスタ②を時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに1と1/2回転戻した位置です。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

＜圧側減衰力標準設定＞

標準位置は、アジャスタ③を時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに2と1/4回転戻した位置です。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

■ リヤサスペンション

▲警 告



リヤショックアブソーバには、高圧の窒素ガスが封入されています。不適切な取り扱いをすると、爆発や破裂が起こるおそれがあります。

- 火や熱から遠ざけてください。
- 取扱説明書をよくお読みください。

アドバイス

リヤショックアブソーバを廃棄するときは、スズキ販売店にご相談ください。

注 記

無理にアジャスタを回すとサスペンションが損傷するおそれがあります。

限界を超えてアジャスタを回さないでください。

注 記

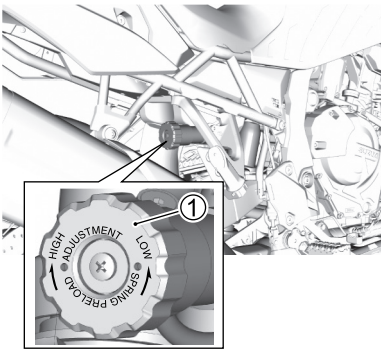
リヤショックアブソーバを汚れたまま調整すると、アジャスタに砂が噛み込んだり、オイルシールの損傷によるオイル漏れの原因になったりします。

調整前に洗浄し、砂などの汚れを十分に落としてください。

スプリングの調整

路面の状態や乗車人数など荷重に応じてアジャスタ①を左右に回してスプリングの強さを調整します。

- 時計回り（“HIGH”側）：強くする
- 反時計り（“LOW”側）：弱くする



<スプリング強さ標準設定>

標準設定にするにはアジャスタ①を次のように操作します。

1. LOW側に止まる位置まで回します。
2. HIGH側に回して最初にクリックする位置まで戻します。（最弱位置0クリック）
3. HIGH 側に 12 回クリックするまで回します。

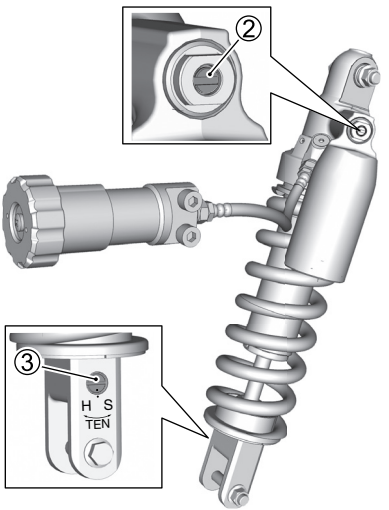
- 標準設定（1名乗車）：12クリック
- 参考設定（2名乗車）：28クリック（標準設定からHIGH側に+16クリック）

減衰力の調整

伸び側および圧側の減衰力は、それぞれのアジャスタを回すことで個別に調整できます。

- 圧側減衰力アジャスタ ② は、リヤサスペンション上部に配置されています。
- 伸側減衰力アジャスタ ③ は、リヤサスペンション底部に配置されています。

減衰力の調整は，まず標準設定にしてからアジャスタで好みの位置に調整します。



＜圧側減衰力標準設定＞

標準位置は、アジャスタ②を時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに1と1/2回転戻した位置です。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

＜伸側減衰力標準設定＞

標準位置は、アジャスタ③を時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに1と3/4回転戻した位置です。

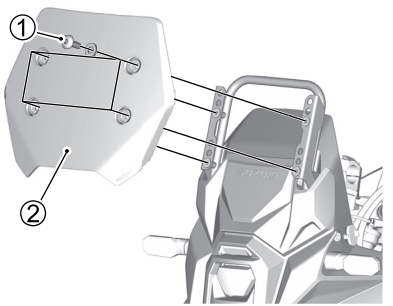
- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

ウインドスクリーン

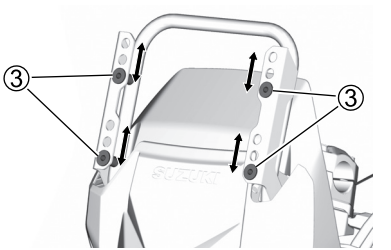
■ 高さの調整

ウインドスクリーンの高さを3つの位置から選択します。次の手順で調整してください。

1. ボルト①を外し、ウインドスクリーン②を取り外します。



2. ウインドシールドのナット③を、変更したい高さの位置に移動します。

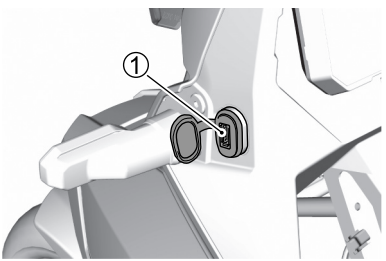


3. 逆の手順でウインドシールドを取りつけます。

USBソケット

■ USBソケットについて

USB ソケット①は、メータの左側に設置されています。出力電圧は5.0V、最大電流2A まで電力供給が可能です。接続する機器についてはお客様の責任でご使用ください。



アドバイス

- **定格値は一時的な容量です。バッテリあがりを防ぐため長時間の使用は避けてください。**
- **ケーブルが挟まったり絡まったりして運転操作の妨げとならないようにしてください。**
- **USB ソケットを使用しないときは、異物の侵入を防ぐためキャップを取り付けてください。**
- **アイドリング中やエンジンの停止中に USB ソケットを使用するとバッテリあがりの原因になります**

注 記

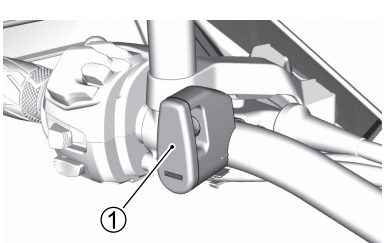
お車や接続機器に損傷を与えるおそれがありますので次のことを守ってください。

- 雨天や洗車など水がかかる環境で使用しないでください。
- 内部に水が侵入する場合がありますので、キャップを取付けていても洗車時、水を強くふきつけないようにしてください。
- バッテリあがりやヒューズが切れる原因となりますので定格を超える機器は使用しないでください。
- 車両故障の原因となりますので充電するための空ふかし等はしないでください。

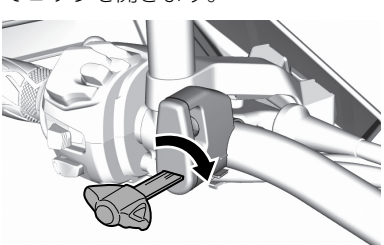
ヘルメットロック

■ ヘルメットロックについて

ヘルメットの盗難抑止のため、左ハンドルに装備しているヘルメットロック①を使いましょう。



1. ハンドルロックをかけます。
2. ヘルメットロックにキーを指し、右に回してロックを開きます。



3. ヘルメットロックにヘルメットの金具をかけ、キーを左に回してロックします。

▲警 告

ヘルメットロックにヘルメットを付けたまま運転すると、運転の妨げとなり事故の原因になります。また、ヘルメットに損傷を与えた場合保護機能を低下させるおそれがあります。

ヘルメットホルダにヘルメットをつけたまま走行しないでください。

アドバイス

- **ロックしたヘルメットは、平面のあるフューエルタンク上にのせておくことをおすすめします。**
- **ヘルメットによっては、ヘルメットの形状やあごひもの長さにより、ヘルメットホルダに取り付けできないことがあります。**

リヤキャリア

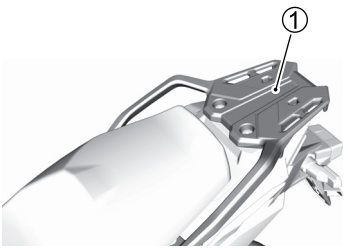
■ 積載量について

リヤキャリア①の最大積載量は10kgです。

▲警 告

最大積載量を超えた積載は、操縦性や安定性に影響を与えるおそれがあります。

最大積載量を超えて積載しないでください。



お車の点検および簡単な整備

点検と整備

■ 概要

定期的なお車の点検や整備は、安全に運転するために、また、お車を長持ちさせるためにとても大切です。ここでは通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

お車をしばらく使用しないときにも、定期点検は実施してください。お車を長期間休ませた後に使い始めるときは、入念に点検してください。
点検の種類やタイミングについては、この章の「日常点検と定期点検」（☞P.183）の項目をご参照ください。

▲警 告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因になるおそれがあります。

常にお車を良い状態に保ってください。もしご自身での整備が難しい場合には、スズキ販売店にご相談ください。

▲警 告

専門的な知識が無い状態で、技量を超えた整備を行うことは、事故や故障の原因になるおそれがあります。

整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

排気ガスには、無色・無臭の一酸化炭素や有毒ガスが含まれています。

一酸化炭素を吸うと、最悪の場合、死亡や重大な損害を生じるおそれがありますので、屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。

⚠警 告

エンジンがかかっている状態での点検は、エンジンの可動部品に手や服がはさまれ、重大なけがを引き起こすおそれがあるため危険です。

ライト、エンジンストップスイッチ、スロットルの点検以外の点検を行うときは、エンジンを止めてください。

⚠警 告

走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。

通常より速度を落とし、交通量の少ない所で行ってください。

⚠警 告

ガソリンや可燃性のある油脂類がありますので、点検、整備を行うときは火気厳禁です。

整備中は、火気を近づけたりやたばこを吸わないでください。

⚠警 告

不安定な場所での整備は、作業中に車両が倒れる原因になります。

整備は、平坦で足場のしっかりした場所で行ってください。

⚠注 意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

エキゾーストパイプやマフラ、エンジンの周辺部品の整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

注 記

メインスイッチがONの状態で電装部品の整備を行うと、電気回路がショートしたときに電装部品に損傷を与えるおそれがあります。

電装部品の整備を行うときには、メインスイッチをOFFにしてキーを抜いてください。

注 記

品質の悪い部品を使うと、お車の寿命を縮めるおそれがあります。

部品を交換するときは、スズキ純正部品のご使用をおすすめします。

アドバイス

一般的な使われ方より激しい状態(シビアコンディション)でお車をご使用される場合には、部品の劣化が通常より著しく進行することがありますので、通常より早めに点検整備を行ってください。シビアコンディションに該当する条件については、お車に付属するメンテナンスノートの[シビアコンディション条件]をご参照ください。

アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

日常点検と定期点検

■ 概要

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐために道路運送車両法で日常点検と定期点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

■ 点検の種類

＜日常点検＞

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
次の項目について点検してください。

ブレーキ
- ブレーキレバー、ブレーキペダルの遊び
- きき具合
- ブレーキ液の量

タイヤ
- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

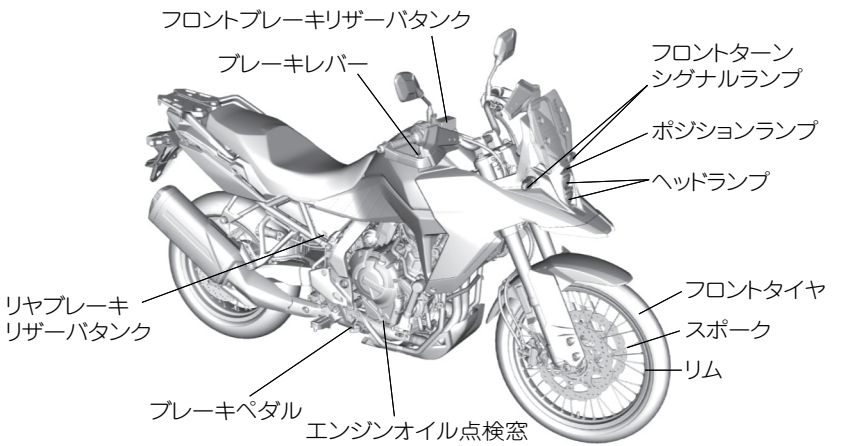
エンジン
- エンジンオイルの量
- 冷却水の量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

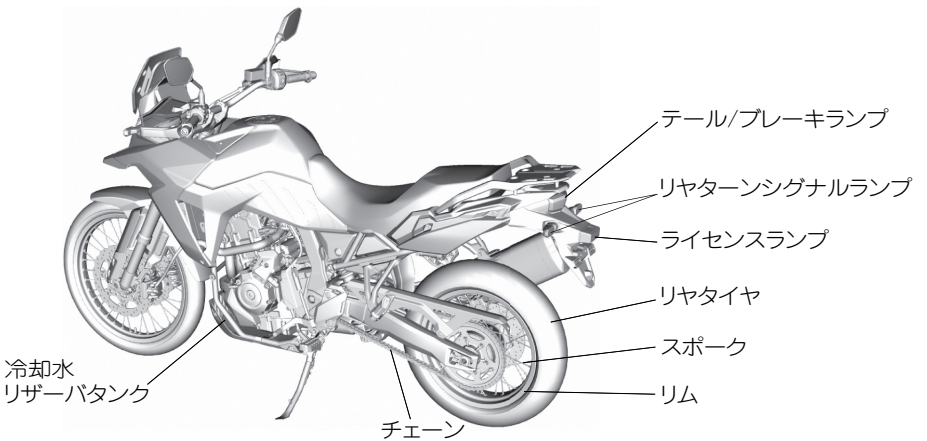
チェーン
※ゆるみ

ホイール
- リムの損傷
- スポークの張り具合

灯火装置、方向指示器（ランプ類）
運行において異常が認められた箇所
※印の点検は、メーカー指定点検を示します。

＜日常点検・部品配置＞


フロントブレーキリザーバタンク
ブレーキレバー
フロントターン
シグナルランプ
ポジションランプ
ヘッドランプ
リヤブレーキ
リザーバタンク
フロントタイヤ
スポーク
リム
ブレーキペダル
エンジンオイル点検窓


テール/ブレーキランプ
リヤターンシグナルランプ
ライセンスランプ
リヤタイヤ
スポーク
リム
冷却水
リザーバタンク
チェーン

＜定期点検＞

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検時期や点検内容などについて、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”、“定期点検の解説” をご覧ください。
- 初期（1か月）点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

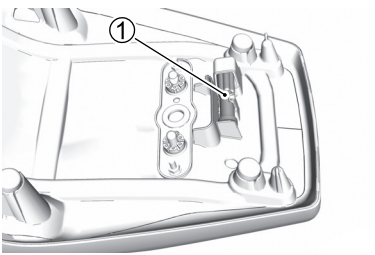
＜継続検査（車検）＞

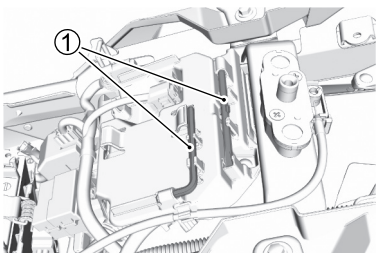
小型自動車（251cm^{3}以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。期間満了前に必ずお受けください。

サービス工具

■ サービス工具の車載場所

サービス工具①は、リヤシート下側に収納されています。





注油

■ 注油ポイント

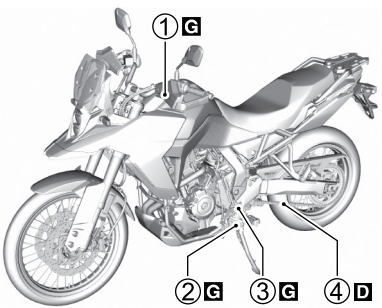
適切な注油は、スムーズな操作や各部品の寿命をのばすためだけでなく、安全に運転するためにも重要です。悪路を長時間走行したとき、雨で濡れたとき、または洗車した後には、注油してください。

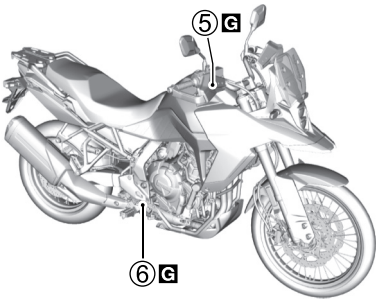
注 記

スイッチへの注油は、故障の原因となります。

グリースを塗ったり、注油をしないでください。

次の箇所に注油してください。





G：グリース
D：ドライブチェーンオイル

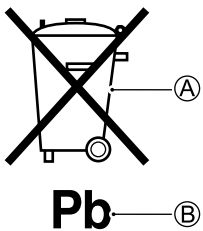
① クラッチレバーピボット
② サイドスタンドピボットおよびスプリングフック
③ シフトペダルピボットおよびフットレストピボット
④ ドライブチェーン
⑤ ブレーキレバーピボット
⑥ ブレーキペダルピボットおよびフットレストピボット

バッテリ

■ 概要

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありませんが、スズキ販売店で定期的にバッテリの充電状態をチェックしてください。

バッテリを処分するときは、それぞれの地域の法律に基づいて処理してください。バッテリラベルにシンボルマークⒶ が表示されているバッテリは家庭用のごみとは分けて処分してください。鉛の含有率が0.004%を超えるバッテリには化学記号“Pb”Ⓑが表示されています。



使用済みのバッテリを適切に処分したり、リサイクルすることで環境や人体への悪影響を防ぐことができます。資源の節約のためにもリサイクルすることをおすすめします。使用済みのバッテリの処分またはリサイクルについて、くわしくはスズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

バッテリの電極、端子、その他関連する部品には、鉛や鉛化合物が含まれています。

鉛が体内にはいると健康を害しますので、鉛が含まれる部品をさわった後は手を洗ってください。

⚠警 告

バッテリからは、引火性の有るガスが発生します。

火気を近づけたり、喫煙をしたりしないでください。

⚠警 告

バッテリには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると、失明や重いやけどを負うおそれがあります.

バッテリを取り外すときに傾けたりしないようにしてください。バッテリの近くで作業するときは、目を守るための適切な保護具や手袋を使用してください。もし目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い医師の診察を受けてください。万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。また、保管するときは、子供の手の届くところに置かないでください。

▲警 告

乾いた布でバッテリをふくと、静電気が発生して引火するおそれがあります。

バッテリをふくときは、静電気を防ぐために湿らせた布で拭いてください。

注 記

長時間のアイドリングや不必要な空ふかしはエンジン部品、触媒装置、電装部品に悪影響を与えます。また、燃料の無駄使いになるだけでなく、オーバーヒートの原因にもなります。

バッテリ充電のための長時間のアイドリングや空ふかしは行わないでください。

アドバイス

補充電については、スズキ販売店にご相談ください。ご自身で補充電される場合は、メンテナンスフリーバッテリに対応した充電器を使用してください。

アドバイス

充電するときに、電流、電圧、充電時間が不適切な場合は、バッテリの寿命を短くするおそれがあります。不明なときは、スズキ販売店にご相談ください。

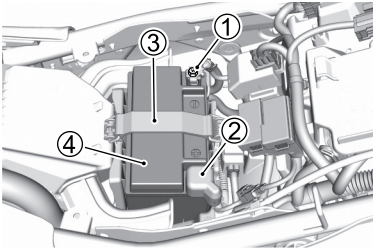
アドバイス

- バッテリを交換する場合は、同タイプのMFバッテリを選んでください
- 長期間、車を使用しない場合は月に一度充電してください。

■ バッテリ取り外し

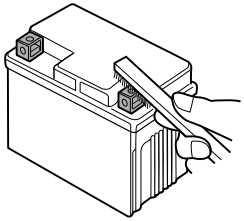
1. メインスイッチをOFFにします。
2. シートを取り外します。
「シートの外しかた」（☞P.165）参照

3. (−)側バッテリコード①を外します。
4. (+)側バッテリコード②を外します。
5. バンド③を外します。



6. バッテリ④を取り外します。

7. ターミナル部に白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふき取ります。腐食が著しいときは、ワイヤーブラシかサンドペーパで磨いてください。



アドバイス

- バッテリコードを外すときは、必ずメインスイッチをOFF にし、マイナス(−)側を先に外してください。取り付けるときはプラス(+)側を先に取り付けます。
- ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、プラス(+) 側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。
- バッテリを交換するときは、スズキ販売店にご相談ください。

■ バッテリ取り付け

1. 取り外しの逆の手順でバッテリを取り付けます。
2. 端子を確実につなぎ、プラス(+)側端子②にバッテリキャップをかぶせます。

注 記

バッテリのリード線のプラス(+)とマイナス(-)を逆に接続すると、充電系統およびバッテリが損傷する原因になります。

接続するときは、赤のリード線はプラス（+）端子に、黒（または黒に白のストライプ）線はマイナス（−）端子に接続してください。

アドバイス

バッテリを外すと時計およびエンジン回転インジケータが初期値に戻りますので、セットし直してください。

エアクリーナ

■ エアクリーナエレメントの点検について

1年毎に点検してください。ホコリが多い場所を走行する機会が多い場合は、6か月毎に点検してください。

アドバイス

エアクリーナエレメントの点検・交換について、ご自身での整備が難しい場合は、スズキ販売店にご相談ください。

エアクリーナエレメントが詰まると吸気抵抗が増え、結果として出力が低下し燃料消費が増大します。指定した時期に整備が必要です。ホコリ、湿気、泥の多い条件で運転する場合は通常よりも頻繁にエアクリーナを点検する必要があります。
次の手順でエアクリーナエレメントを取り外し、点検または清掃してください。

⚠警 告

エアクリーナエレメントを正しい位置に取付けないでエンジンをかけると危険です。エアクリーナエレメントが付いていないとエンジンからのバックファイアがエアクリーナボックスに吹き返されるおそれがあります。また、埃がエンジンに侵入し、重大なエンジンの損傷を招くおそれがあります。

エンジンをかけるときは必ずエアクリーナエレメントを正しい位置に取り付けてください。

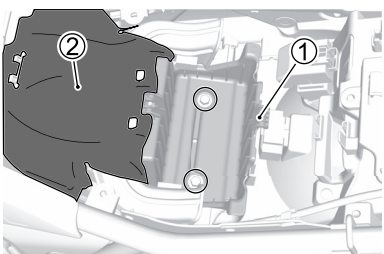
▲注 意

埃が多い、濡れている、または泥が多い環境で使用する場合、エアクリーナエレメントを頻繁に点検しないと故障につながるおそれがあります。このような状況でエアクリーナが詰まるとエンジンの損傷の原因になります。

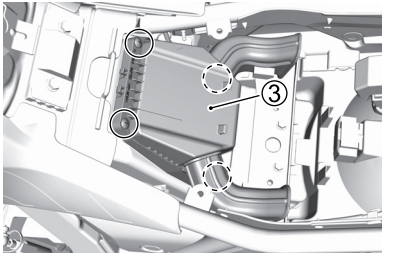
過酷な環境で走行したあとは必ずエアクリーナエレメントを点検し、必要に応じて交換してください。エアクリーナケースに水が入った場合は、ただちにエレメントとケース内の清掃を行ってください。

取外し

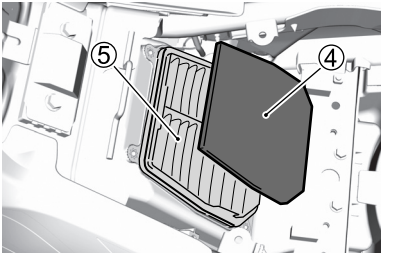
1. シートを取り外します。(☞ P.165)
2. バッテリを取り外します。(☞ P.194)
3. ボルトを外し、バッテリホルダ①を取り外します。
4. エアクリーナシート②を外します。



5. スクリュを外し、エアクリーナキャップ③を取り外します。



6. プレフィルタ④、エアクリーナエレメント⑤を取り外します。



点検と清掃

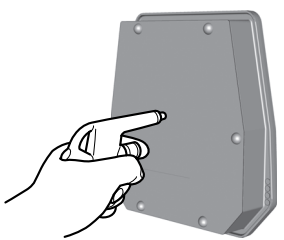
エアクリーナエレメント(不織布)

1. エアクリーナエレメントの不織布側を下に向けて軽くたたき、ごみやほこりを落とします。
2. エアクリーナエレメントの網目状の側に慎重にエアを吹きつけて、ほこりを吹き飛ばします。
3. エアクリーナエレメントを目視により点検します。汚れ、詰まり、損傷がある場合は交換してください。

アドバイス

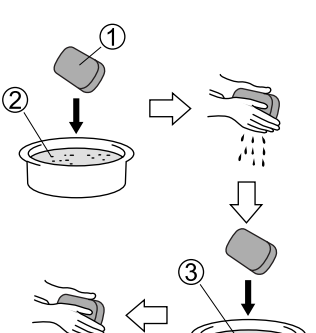
不織布側にエアを吹きつけるとほこりなどの汚れがエアクリーナエレメントに詰まり空気抵抗が増えてしまう場合があります。

エアは図示のように網目状の側より吹きつけてください。



プレフィルタ(ポリウレタン)

1. プレフィルタ①をきれいな灯油②に浸して洗浄します。
2. 手のひらでしぼって、乾燥させます。このとき、ひねったり、ねじったりしないでください。
3. きれいなオイル③を浸透させます。
   推奨オイル：
   SAE 10W-30相当のエンジンオイル
4. 余分なオイルをしぼり出します。



⚠警 告

オイルや溶剤は有害ですので、幼児やペットが誤って飲み込むと身体に重大な影響を与えます。また、繰り返し触れたり、長時間触れたりすると皮膚がんの原因になるおそれがあり、短時間でも皮膚に刺激を与えることがあります。次のことをお守りください。

- 新品、使用済みのオイルや溶剤は、子供やペットの手の届かないところに保管してください。
- 作業するときは長袖シャツや耐油性の手袋を着用してください。
- オイルや溶剤が皮膚に付着した場合は石けんで十分に洗い流してください。

アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

取付け

⚠注 意

エアクリーナエレメントが破れていると、エンジンに汚れが入り、エンジンが損傷することがあります。

エアクリーナエレメントが破損している場合は、新しいエアクリーナエレメントと交換してください。取付け前にエアクリーナエレメントに裂け目がないか確認してください。

⚠注 意

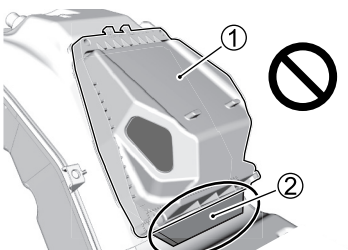
エアクリーナエレメント取付け位置が正しくないと、汚れがエアクリーナエレメントをすり抜け、エンジン損傷の原因となります。

エアクリーナエレメントを正しく取り付けてください。

▲注 意

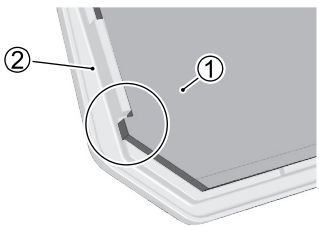
エアクリーナキャップ②を取り付ける際、プレフィルタ①の取り付けが不適切だとエンジン内部に異物が入り、損傷の原因になります。

プレフィルタは、エアクリーナキャップで挟まないように取りつけてください。



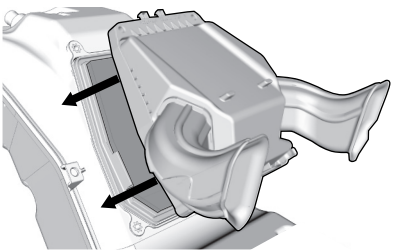
取付けは取外しの逆の手順で行い、次の点に注意してください。

- プレフィルタ ① は図示の位置に注意して配置します。



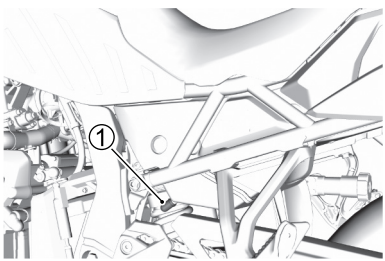
② エアクリーナエレメント

● エアクリーナキャップは、プレフィルタがずれないようにフィルタ面に対して垂直に取り付けてください。



■ エアクリーナドレンプラグの清掃

1年毎にエアクリーナボックスの下に取り付けられているエアクリーナドレンプラグ ① に、水やオイルがたまっていないかを点検してください。



<エアクリーナドレンプラグの点検、清掃>

1. エアクリーナドレンプラグ①に、水やオイルがたまっていないかを点検します。
2. 汚れや水がたまっている場合は、エアクリーナドレンプラグを外し、汚れや水を取り除きます。
3. エアクリーナドレンプラグを確実に取り付けます。

エンジンオイル

■ 概要

エンジンの寿命は、オイル量と品質によって大きく左右されます。また、日頃のオイル量の点検と定期的な交換は、お車の性能を引き出すうえで非常に大切ですので、忘れずに行いましょう。

エンジンオイル交換時期：
初回1か月または1,000 km
以降6,000 kmまたは1年ごと
オイルフィルタ交換時期：
初回1か月または1,000 km
以降18,000 kmごと

⚠警 告

エンジンオイルの取り扱いを誤ると、お体やお車に悪影響をおよぼします。

取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んで従ってください。

■ エンジンオイルの選びかた

＜推奨オイル＞

適切な量と品質のいいオイルをご使用頂くために、下記の純正オイルをおすすめします。

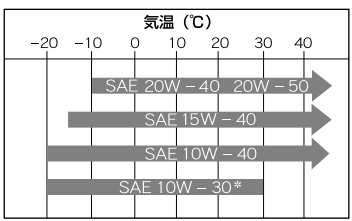
規格 / オイル	SAE	JASO
エクスター R9000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R7000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R5000 MA2	10W-40	MA2

推奨オイルが入手できない場合は、次の規格を満足するエンジンオイルをご使用ください。

SAE	API	JASO
10W-40	SJ, SL, SM, SN	MA (MA1,MA2)

＜SAE粘度表＞

SAE10W-40 のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。



＊APIがSJ,SLのもの

注 記

銘柄やグレードの違うオイルを混ぜて使用すると、変質して故障の原因となることがあります。

オイルを混ぜて使ったり、低品質オイルを使用したりしないでください。

＜摩擦低減剤＞

摩擦低減剤は、不具合の原因になるため使用しないでください。

API SJ, SL, SM or SN



推奨します

API SL or SM



API SN



推奨しません

注 記

クラッチは、エンジンオイルに浸されていますので摩擦低減剤を含むエンジンオイルはクラッチのすべりなどの原因となる場合があります。

摩擦低減剤を必要以上に多く含むエンジンオイルは使用しないでください。また摩擦を低減する添加物は加えないでください。

<JASO T903>

JASO T903は、4サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。
二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903 はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。
MA（MA1、MA2）、MB の分類があり本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。

例：MAのとき

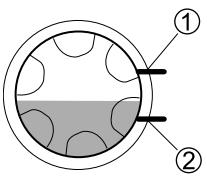


①オイル販売会社の整理番号
②性能分類の表示MA分類を示す

■ エンジンオイル量の点検

1. 平坦地に駐車します。
2. エンジンを 3 分間アイドリング運転します。
3. エンジンを停止し、サイドスタンド状態で3分間待ちます。
4. 車体を垂直にして、エンジン右側にある点検窓のF(Full)①とL(Low)②の間にエンジンオイルの油面があるかを点検します。油面がF(Full)①以上またはL(Low)②以下の場合は、F(Full)①とL(Low)②の間になるよう調整してください。

●油面がL(Low)②以下の場合は、オイルを補給してください。
●油面がF(Full)①以上の場合は、オイルを抜くなどして調整してください。オイルを抜く方法については、スズキ販売店にご相談ください。



▲注 意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このときに触れるとやけどを負うおそれがあります。

周辺部品の整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

注 記

エンジンオイルが多すぎても、少なすぎてもエンジンに悪影響を与えます。

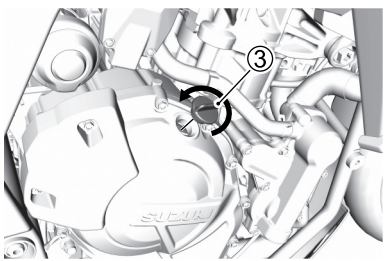
車体を水平な場所に止めてください。車を使用する際には毎回点検窓でエンジンオイルレベルを点検してください。オイルレベルはL(Low) 線とF(Full) 線の間にあることを確認してください。

アドバイス

エンジンオイル量の点検前に車体をゆすると正確なオイル量が確認できない場合があります。

■ エンジンオイルの補給

1. 平坦地に駐車します。
2. エンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
3. 3分後、オイル注入口キャップ③を外します。



4. 車体を垂直にして、F(Full)①とL(Low)②の間に油面がくるように補給します。
5. キャップ③を確実に取り付けます。

▲警 告

エンジンオイルは有害ですので、幼児やペットが誤って飲み込むと身体に重大な影響を与えます。

新しいオイル、エンジンから抜いたオイル、オイルフィルタは、幼児やペットが触れない場所に置いてください。

▲警 告

エンジンオイルに繰り返し触れたり、長時間触れたりすると皮膚がんの原因になるおそれがありますので注意してください。

オイル交換をする際には、オイルに触れるのを避けるために長袖や防水性の手袋を着用してください。もし、オイルが皮膚に付いたときは石鹸で十分に洗い、衣類やウエスにオイルがついた場合は洗濯してください。また、使用済みのオイルやオイルフィルタは、リサイクルするか適切な方法で処分してください。

注 記

オイル注入口からゴミなどが入るとエンジンが損傷するおそれがあります。

作業前に オイルジョッキの内部等にホコリや泥、異物等が付着していないことを確認し、オイル注入口から入らないようにしてください。

アドバイス

オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。

冷却水

■ 概要

冷却水は定期的な交換が必要ですのでメンテナンスノートに従って適切な時期に交換してください。冷却水の交換は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 指定冷却水

冷却水はエンジンを冷やすためだけでなく内部のサビを防ぐために潤滑もしています。また、寒冷地でも凍らないように不凍液を使用しています。お客様の地域が寒冷地でなくても必ず指定の冷却水をご使用ください。

指定冷却水：スズキスーパーロングライフクーラント
冷却水容量：1870ml

<スズキスーパーロングライフクーラント(青)>

スズキスーパーロングライフクーラントは水で希釈する必要はありません。

▲警 告

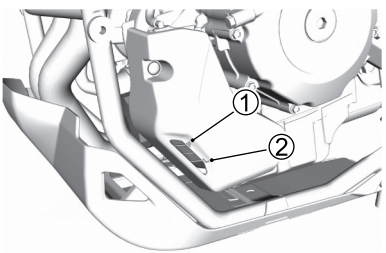
冷却水の取り扱いを誤ると、お体やお車に悪影響をおよぼします。

取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んで従ってください。ご不明な点は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 冷却水の量の点検

エンジンが冷えているときに、次の手順で点検してください。

1. 平坦地に駐車します。
2. 車体を垂直にして、冷却水がリザーバタンクのF(Full)①とL(Low)②の間にあるかを点検します。

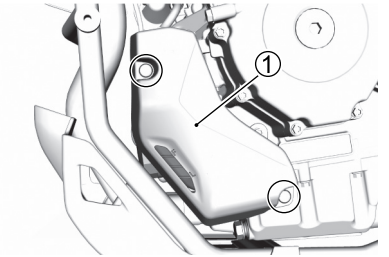


アドバイス

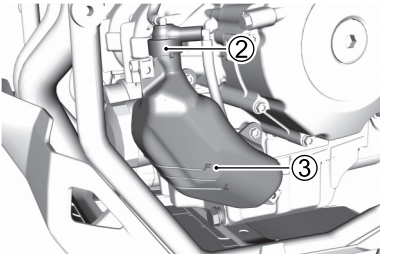
- 冷却水の減りが著しいときはラジエータ本体、ホースなどからの冷却水漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。
- リザーバタンクが空の場合は、ラジエータ内の冷却水も不足している可能性があります。
- 冷却水の交換はスズキ販売店にご相談ください。

■ 冷却水の補充

1. 平坦地に駐車します。
2. リザーバタンクカバー ①を外します。



3. リザーバタンクキャップ②を外します。
4. アッパレベル③まで冷却水を補給します。
   適切な冷却水については、「指定冷却水」（☞P.217）の項目を参照ください。



⚠警 告

冷却水は有毒のため、液を飲んだり蒸気を吸い込んだりすると身体に重大な影響を与えます。

冷却水や不凍液は、絶対に飲まないようにしてください。もし飲み込んだ場合は、無理に吐かずにすぐに医師に連絡してください。また、蒸気を吸い込んだ場合は、蒸気を吐き出し、きれいな空気を吸ってください。目に入った場合は、すぐに水で洗い流し、医師の診察を受けてください。冷却水を取り扱った後は、十分に手を洗ってください。冷却水を保管するときは、幼児やペットが触れない場所に置いてください。

⚠警 告

エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、やけどを負うおそれがあります。

冷却水の補給はリザーバタンクキャップから行い、ラジエータキャップは外さないでください。

⚠注 意

F(Full)レベルを超えて補給するとエンジンが熱くなったときに冷却水がリザーバタンクからあふれ出るおそれがあります。

冷却水の補給はF(Full)レベル以上に入れないでください。

注 記

冷却水はお車の塗装面を痛めるおそれがあります。

こぼさないように注意してください。こぼれたときは、すぐにふき取ってください。

アドバイス

水だけを補充するとエンジンクーラントは希釈され効果が低下します。必ず、指定の冷却水を補充・交換してください。

■ 冷却装置の点検

ラジエータ本体やホースに損傷やひび、冷却水の漏れがないかを点検してください。もし不具合が見つかった場合は、スズキ販売店にご相談ください。

ドライブチェーン

■ 概要

この車両のドライブチェーンは、エンドレスチェーンを使用しています。チェーンを交換するときは、スズキ販売店にご相談ください。
毎回、運転する前にはチェーンの状態とゆるみを点検してください。点検と整備の方法は、次の「点検」の項目に従ってください。

⚠警 告

ドライブチェーンのゆるみが多いとスプロケットからはずれ、重大な事故を引き起すおそれがあります。

運転前にドライブチェーンの点検または調整をしてください。

■ ドライブチェーンの点検

次の点を点検してください。

- ピンのゆるみ
- ローラーの損傷
- リンクの乾燥や錆
- 曲がりや固着
- 異常摩耗
- ゆるみ(たるみ)量

ドライブチェーンの状態や調整に関して、不具合を見つけた場合はご自身の知識や技量に応じて整備してください。ご自身での整備が難しい場合は、スズキ販売店にご相談ください。

もしドライブチェーンが損傷している場合は、スプロケットも損傷しているおそれがありますので、スプロケットについて次の点を点検してください。

- 歯の異常摩耗
- 歯の欠損または損傷
- スプロケットマウントナットのゆるみ

スプロケットに不具合が見つかったときは、スズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

かしめが不十分だったり、クリップ式のチェーンを使ったりすると、ドライブチェーンがはずれたり切れたりする原因になります。重大なエンジンの損傷や事故を引き起こすおそれがありますので注意してください。

チェーンの交換には、特別な工具や品質の高いノンクリップタイプのチェーンが必要です。専門の技術が必要ですので、スズキ販売店にご相談ください。

■ ドライブチェーンの清掃・注油

1. ドライブチェーンにホコリや泥などが付着しているときは汚れを取り除きます。そのときに、シールリングを傷付けないように注意してください。
2. 洗浄は、シールチェーン専用クリーナまたは水や中性洗剤などと柔らかいブラシを使用します。
   ブラシは柔らかくてもシールを痛める場合があるため、シールリングを傷付けないよう注意してください。

推奨クリーナ：スズキアルミホイール&チェーンクリーナ

注 記

不適切な清掃をすると、ドライブチェーンのシールリングに傷がついたりドライブチェーンが壊れたりすることがあります。

- **シンナー、灯油、ガソリン等の揮発性溶剤を使用しないでください。**
- **高圧洗車やスチーム洗車をしないでください。**
- **ワイヤーブラシを使用しないでください。**

3. 水や洗浄剤をきれいにふき取ります。

4. 注油は２輪シールチェーン専用オイルもしくは粘度の高いオイル（#80～90）を使用します。

注 記

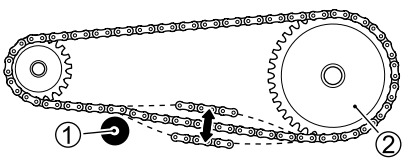
ドライブチェーンオイルの中にシールリングに損傷を与える溶剤や添加物が含まれている場合があります。

シールリング付きドライブチェーン専用オイルを使用してください。

5. オイルがドライブチェーン各部によく行きわたるように、ドライブチェーンチェーンの手前と奥の両側に注油します。
6. 全周に注油した後、外側の余分なチェーンオイルを乾いたウエスでふき取ります。

■ ドライブチェーンのゆるみ点検

運転前にドライブチェーンのゆるみ（たるみ）を点検してください。平坦路に駐車して、チェーンローラ①とリヤスプロケット②の中央部のゆるみ（たるみ）が30～40 mmになっているか点検します。



▲注 意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

ドライブチェーンの整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

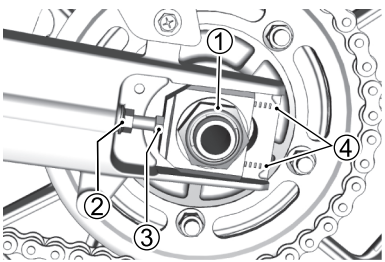
■ ドライブチェーンの調整

1. 平坦路に駐車します。
2. アクスルナット①をゆるめます。
3. 左右のロックナット②をゆるめます。
4. 左右のアジャスタボルト ③ を回してチェーンローラとリヤスプロケットの中央部のゆるみ（たるみ）が規定値になるように調整します。

   ゆるみ（たるみ）規定値：30～40 mm
5. ドライブチェーンはフロントスプロケットとリヤスプロケットに対して一直線上になるように調整します。スイングアーム上の目盛り④を目安に左右同じ位置に合わせてください。

アドバイス

スイングアーム上の目盛り④の範囲内で調整してください。スイングアーム上の目盛り④の範囲を超える場合はドライブチェーンを交換してください。



6. アクスルナット ① を規定トルクで締め付けます。

   アクスルナット規定トルク：100 N·m

アドバイス

アクスルナットの締め付けは、トルクレンチを使用してください。トルクレンチが無い場合は、スズキ販売店へご相談ください。

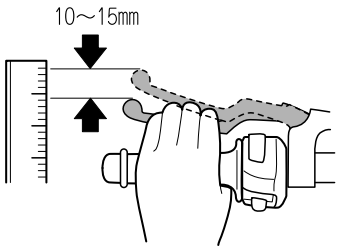
7. ゆるみが規定値であるか再確認します。必要であれば再調整します。
8. 左右のロックナット②を締め付けます。

   ロックナット規定トルク：22 N·m

クラッチ

■ クラッチレバー遊びの点検

軽い抵抗を感じるまでクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。規定の範囲から外れている場合は調整してくださ。。

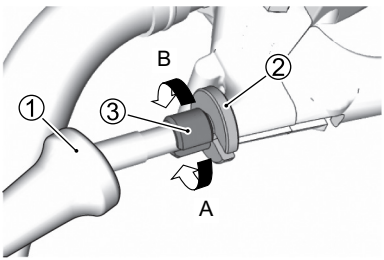


■ クラッチレバー遊びの調整

1. カバー ①をめくります。
2. ロックナット②をゆるめます。
3. アジャスタ③を回し、遊びを調整します。
   - A側に回すと遊びが多くなります。
   - B側に回すと遊びが少なくなります。
4. ロックナット②を締め付けます。
5. ゴムカバーを取り付けます。

アドバイス

適正な遊びに調整できない場合には、スズキ販売店にご相談ください。



ブレーキ

■ 概要

この車は、前輪と後輪にディスクブレーキを装備しています。

▲警 告

ブレーキ系統の点検と整備が不適切な場合は、事故にあう可能性が増えます。

運転前には、「乗車前点検」の項目を参考に点検してください。また、メンテナンスノートに従って定期点検を行ってください。ブレーキ液は、安全のため2年毎に交換してください。

アドバイス

泥、水、砂などがブレーキにかかる運転は、ブレーキディスクやパッドの消耗が早くなります。このような運転が多い場合には、メンテナンスノートの点検時期より頻繁に点検してください。

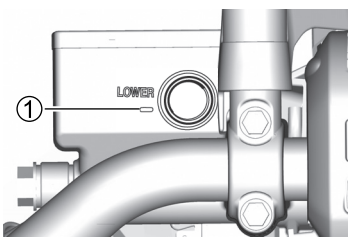
■ ブレーキホースの点検

ブレーキホースや接続部に損傷がないかを点検してください。もし、ひび割れや亀裂などの不具合が見つかったときは、スズキ販売店でブレーキホースを新しいものに交換してください。

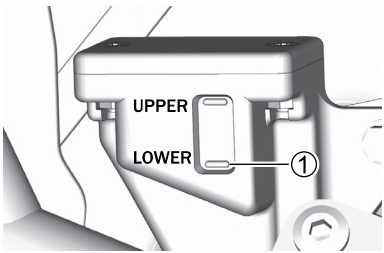
■ ブレーキ液の量の点検

平坦地で車体を垂直にしてハンドルを直進状態にします。リザーバタンクの液面がロアレベル①より上にあるかを点検します。

フロントブレーキ



リヤブレーキ



▲警 告

液面がロアレベル以下の場合は、ブレーキパットの摩耗やブレーキ系統の液漏れ等が考えられます。

スズキ販売店で点検を受けてください。

⚠警 告

ブレーキ液は、吸湿性が高いためブレーキホースなどを通して徐々に湿気を吸収します。湿気を吸収すると沸点が下がり、ブレーキが効きにくくなることがあります。また、ブレーキ部品を腐食させてブレーキシステム（ABS を含む）の異常を引き起こすおそれがあります。

安全のため、2年毎にブレーキ液を交換してください。

指定ブレーキ液：

スズキブレーキフルードDOT4（JIS BF-4）

⚠警 告

DOT4以外のブレーキ液を使用すると、ブレーキの損傷の原因になり事故を招くおそれがあります。

必ずDOT4のブレーキ液を使用し、違う種類のものを混ぜて使用しないでください。また、ブレーキ液の容器は、品質の低下をふせぐために使う直前に開けてください。ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

⚠警 告

リザーバタンクにゴミなどが入ると、ブレーキ系統故障の原因になります。

ブレーキ液を入れるときは、フィラーキャップを開ける前にキャップの周りを清掃してください。

⚠警 告

ブレーキ液は有害ですので、絶対に飲まないでください。また、皮膚に付いたりや目に入らないように注意してください。

もし、飲んだ場合には、すぐに医師に連絡してください。目に入った場合は、すぐに水で洗い流し、医師の診察を受けてください。また、幼児やペットが触れない場所に保管してください。

注 記

ブレーキ液はお車の塗装面、プラスチック、ゴム類を痛めるおそれがありますので、こぼさないように注意してください。

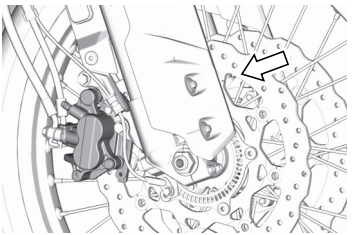
こぼれたときは、すぐにふき取ってください。

■ ブレーキパッドの摩耗の点検

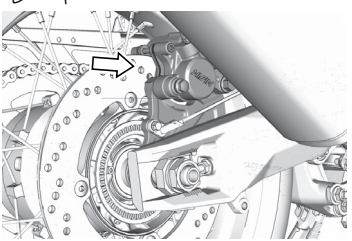
ブレーキキャリパの前後から、ブレーキパッドの摩耗状態を点検します。
摩耗限度溝①がディスクプレートまで達している場合（パッドの厚さが約1mmになったら）は、ブレーキパッドを交換してください。

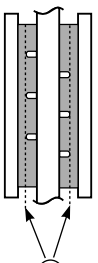
ブレーキパッド交換後は、ブレーキレバーまたはブレーキペダルが正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。これにより、ブレーキパッドが適切な位置になります。
新しいブレーキパッドは、きき具合が異なる場合がありますので、慎重な運転を心がけてください。

フロントブレーキ

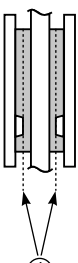


リヤブレーキ





フロント



リヤ

⚠警 告

ブレーキパッドの点検や整備を行わなかったり、適切なパッドを使わなかった場合には、ブレーキが効かずに事故を招くおそれがあります。

ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

両側にあるブレーキパッドのうち片側だけを交換すると、ブレーキの利きが安定しません。

両側のブレーキパッドを一緒に交換してください。

⚠警 告

ブレーキを修理したり、ブレーキパッドを交換したりした後は、パッドが適切な位置になっていません。ブレーキレバーやペダルを数回ストロークせずに走行すると、ブレーキが効きにくくなっているため危険です。

走行前に必ずブレーキレバーやペダルを数回ストロークして、ブレーキが効くことを確認してください。

アドバイス

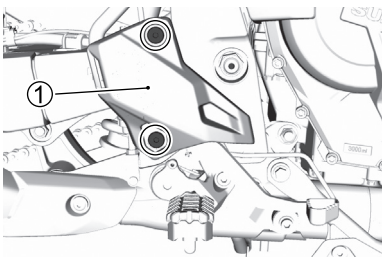
ブレーキパッドの交換中は、ブレーキレバーやペダルをストロークしないでください。ブレーキキャリパのピストンを元の位置に戻すことが難しくなるだけでなく、ブレーキ液が漏れる原因になります。

■ リヤブレーキペダルの高さ調整

ブレーキペダルの高さを適切な位置に調整してください。調整が不適切だと、ブレーキパッドがディスクに当たり続け、摩耗や損傷の原因になります。

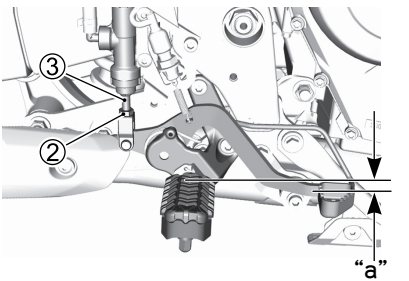
次の手順でブレーキペダルの位置を調整してください。

1. フットレストガード①を取り外します。



2. ロックナット ② をゆるめてプッシュロッド③を回し、ペダルをフットレスト上面から低い位置に調整します。

リヤブレーキペダル高さ“a”
: 10 - 20 mm



3. ロックナットを締め付け、プッシュロッドを固定します。
4. フットレストガードを取り付けます。

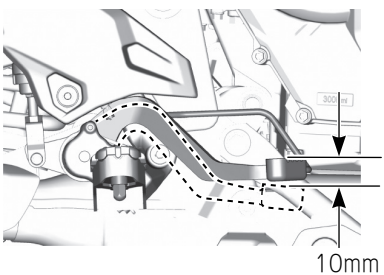
注 記

ブレーキペダルの調整が不適切だと、ブレーキパッドとディスクが常に当たり続け、摩耗や損傷の原因になります。

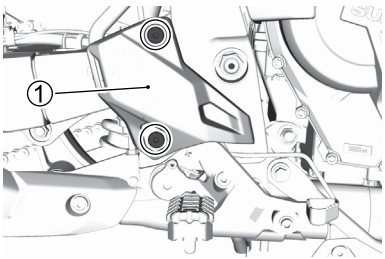
この項目に書かれている方法で、ブレーキペダルを正しく調整してください。

■ リヤブレーキランプスイッチの点検および調整

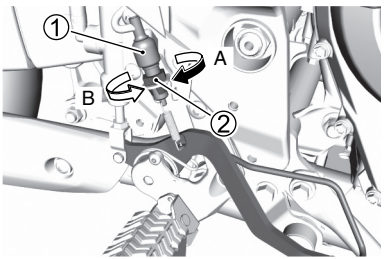
リヤブレーキペダルを10mm程度踏み込んだときに、ブレーキランプが点灯を始めるか点検します。点灯の開始が早い場合や遅い場合は、リヤブレーキランプスイッチを調整してください。



1. フットレストガード①を取り外します。



2. リヤブレーキランプスイッチ本体 ① を指で固定し、アジャスタ②を回して調整します。
   - A側に回すと点灯開始が早くなります。
   - B側に回すと遅くなります。



注 記

調整をするときにリヤブレーキランプスイッチ本体を回すと、配線の断線の原因となることがあります。

リヤブレーキランプスイッチ本体が回らないようにしてアジャスタを回してください。

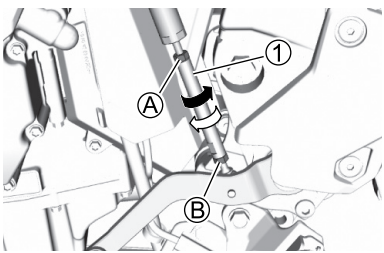
シフトペダル

■ 概要

ギヤチェンジしにくいときは、シフトペダルの高さがご自身の体に合っていない可能性があります。ご自身の体に合った高さに調整することをおすすめします。

■ シフトペダル高さの調整

1. ロックナットⒶ、Ⓑを右側（➡）に回してゆるめます。
2. ロッド①を右側（➡）に回すとペダル位置が高く、反対（⇦）に回すと低くなります。



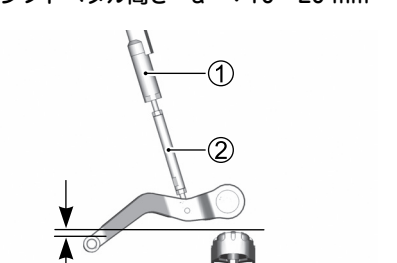
3. シフトペダル位置をフットレスト上面から低い位置に調整します。

注 記

シフトセンサ①を回転させるとクイックシフトが正常に機能しなくなるおそれがあります。

シフトペダルの高さ調整はロッド②で行い、シフトセンサ①は回転させないでください。

シフトペダル高さ“a”：10 - 20 mm



4. 調整後は、ロックナットⒶ、Ⓑを左側（⇦）に回して締め付けてください。

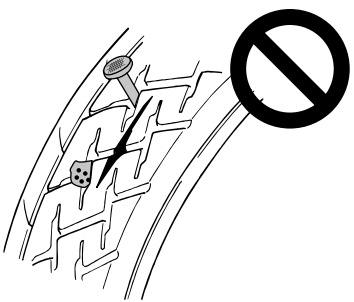
アドバイス

調整後は、ロックナットを確実に締め付けてください。

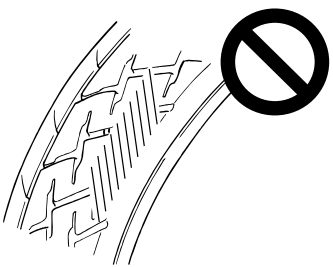
タイヤ

■ 概要

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷がないかを確認します。また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。



また、タイヤの接地面が、異常に磨耗していないかを確認します。異常に磨耗している場合は、スズキ販売店にご相談ください。



タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	サイズ	90/90-21M/C 54H
	種類	DUNLOP：MIXTOUR B
後	サイズ	150/70R17M/C 69H
	種類	DUNLOP：MIXTOUR B

⚠警 告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。

必ず指定タイヤを取り付けてください。

⚠警 告

タイヤの修理、取り付け、バランス取りが不適切だと、お車をコントロールしにくくなったり、タイヤの摩耗が早くなったりします。

- タイヤの交換、修理、バランス取りには、適切な工具や経験が必要ですので、スズキ販売店やバイクショップにご相談ください。
- 取り付けるときには、タイヤ側面にある回転方向を示す矢印に注意して取り付けてください。

⚠警 告

タイヤは、お車と路面をつなぐ重要な部品です。安全に運転するために、以下の内容をお守りください。

- 運転する前に、タイヤの状態と空気圧をチェックし、必要であれば空気圧を調整してください。
- 最大積載量を守り、過度な積載は避けてください。
- 限界まで摩耗していたり、亀裂や損傷を発見したりしたときは交換してください。
- この取扱説明書に記載されているサイズと種類のタイヤを必ず使用してください。
- 取付け後は、ホイールのバランスを取ってください。
- この取扱説明書のこの章をよく読んでください。

▲警 告

タイヤのならしを適切に行わないと、タイヤがスリップしてコントロールを失うおそれがあります。新しいタイヤに交換したときは、特に注意して運転してください。

「ならし運転」（P.16）の項目を参照し、最初の160 km は急加速、急カーブ、急ブレーキを避けてタイヤのならしを正しく行ってください。

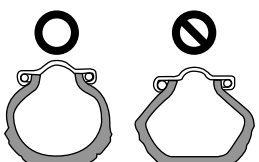
アドバイス

新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

■ タイヤ空気圧の点検

安全運転のために、タイヤの空気圧と使用するタイヤの選択は取扱説明書に従ってください。

タイヤは、走行すると温まって空気圧が上がるため、走行前のタイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して、規定の空気圧になっているか点検します。規定値を外れている場合は、適正な空気圧に調整してください。



また、最大積載量を超えると、タイヤの損傷につながったり、お車をコントロールできなくなったりするおそれがありますので注意してください。

運転する前に、次の表を参考に、乗車人数にあったタイヤの空気圧になっているか確認してください。

タイヤ空気圧

1人乗車時	**前**	225kPa
	後	250kPa
2人乗車時	**前**	225kPa
	後	280kPa

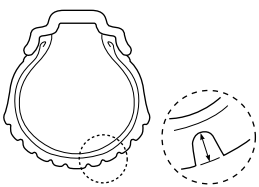
空気圧が下がると、曲がりにくくなるだけでなく、タイヤの摩耗が早くなります。逆に、空気圧が高いとタイヤと路面の接地面が小さくなるため、滑って転倒する原因になります。

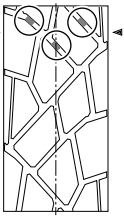
■ タイヤ溝の深さの点検

タイヤの状態や種類は、お車の性能に影響します。タイヤに亀裂や損傷などの異常があると、お車をコントロールできなくなるおそれがあります。摩耗したタイヤは、ハンドリング特性が変わるだけでなく、パンクしやすくなりますのでご注意ください。

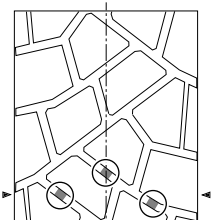
運転前に、タイヤの状態を確認してください。使用限度近くまで摩耗しているときは、安全に走行するために早めのタイヤ交換をおすすめします。

溝の深さは、前1.6mm、後2.0mm以上が望ましいです。ウエアインジケータが路面に接触するようになったら、タイヤの摩耗限界に到達したことを示していますので、タイヤを交換してください。





前輪ウエアインジケータ



後輪ウエアインジケータ

ホイール

■ ホイールリムの点検

ホイールのリムにひび、ひずみ、曲がりなどの損傷がないか点検します。



▲警 告

損傷したリムは、エア漏れや走行安定性の低下をまねき、事故の原因となるおそれがあります。

損傷を見つけた場合はリムを交換してください。また、損傷したリムは、修正、修理をして再使用しないでください。

■ ホイールスポークの点検

スポークの点検は、スポークを金属製の棒で軽くたたいて行います。たたいたときに、にぶい音がするスポークは調整が必要です。スポークの調整は、スズキ販売店にご相談ください。



⚠警 告

スポークの調整には、専門的な技術と知識が必要です。不適切な調整は他のスポークに影響を与え、リムの変形や走行安定性の低下をまねくおそれがあります。

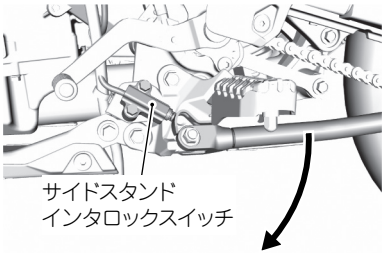
スポークの調整はスズキ販売店にご相談ください。

サイドスタンド/インタロックシステム

■ サイドスタンド/インタロックシステムの点検

次の手順でサイドスタンド/インタロックシステムが正常であるか点検します。

1. サイドスタンドを外して乗車します。
2. ギヤを1速に入れて、クラッチレバーを握り、エンジンを始動します。
3. クラッチレバーを握ったままでサイドスタンドを出します。



- サイドスタンドを出したときにエンジンが停止するようならサイドスタンド/インタロックシステムは正常に機能しています。
- ギヤが入っている状態スタンドを出したときにエンジンが停止しないようならサイドスタンド/インタロックシステムは適切に動作していません。スズキ販売店で点検を受けてください。

ヒューズ

■ 概要

電装部品は、大きな負荷がかかっても破損しないようにヒューズで保護されています。電装部品が動かないときは、ヒューズが切れていないかを確認してください。

▲警 告

指定容量を超えるヒューズや針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。原因が分からないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

お車に適さない電装品類（ランプ、計器など）を取り付けるとヒューズが切れたり、バッテリあがりを起こしたりすることがあります。

電装品類を取り付けるときは、スズキ純正用品をご使用ください。

注 記

洗車時、ヒューズのまわりに水を強くふきつけると、配線の中に水が入り、腐食やショートの原因になります。

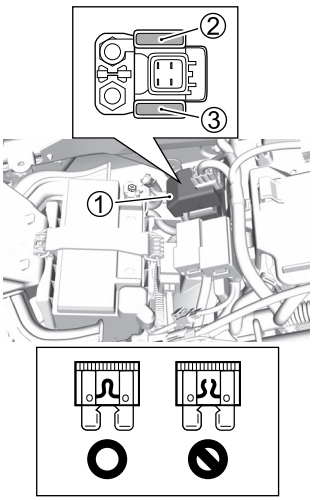
ヒューズのまわりは、水を強く吹きつけないように注意してください。

■ メインヒューズ

メインヒューズはシートの下側にあります。

次の手順でメインヒューズを点検します。

1. メインスイッチをOFFにします。
2. シートを取り外します。
   「シートの外しかた」（☞P.165）参照
3. スタータリレーボックスのカバー ① を外し、ヒューズ②を取り外して点検します。
4. 切れている場合は原因を調べ、修理してから指定アンペアのスペアヒューズ③と交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

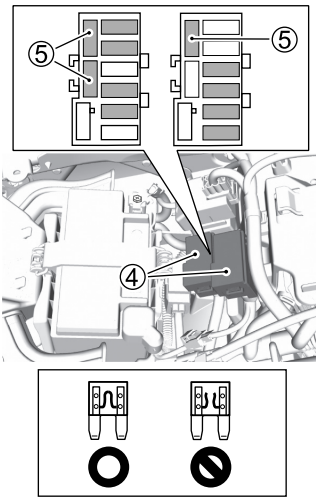


■ ヒューズ

ヒューズはシートの下側にあります。

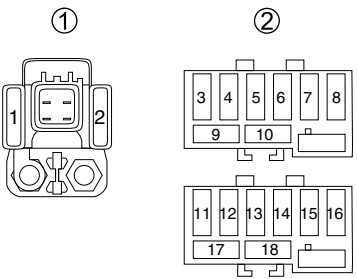
次の手順でヒューズを点検します。

1. メインスイッチをOFFにします。
2. シートを取り外します。
   「シートの外しかた」（☞P.165）参照
3. ヒューズボックスカバー④を開け、ヒューズを取り外して点検します。
4. 切れている場合は原因を調べ、修理してから指定アンペアのスペアヒューズ⑤と交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。



■ ヒューズリスト

次の表は、各ヒューズが保護する主な装備を表しています。



①スタータリレーボックス
②ヒューズボックス

位置	表示	容量	接続先名称
1	MAIN	30A	すべての電気回路
2	SPARE	30A	-
3	-	-	-
4	-	-	-
5	P-SOURCE	10A	アクセサリ
6	PARKING	10A	・ポジションランプ ・テールランプ ・ライセンスランプ
7	ABS-VALVE	15A	ABS
8	ABS-MOTOR	20A	ABS
9	SPARE	20A	-
10	-	-	-
11	HEAD-HI	10A	・ヘッドランプ(ハイビーム) ・ハイビームリレー ・スピードメータ
12	HEAD-LO	10A	ヘッドランプ(ロービーム)

位置	表示	容量	接続先名称
13	IGNITION	10A	・スタータリレー ・クーリングファンリレー ・フューエルポンプリレー ・ソレノイド ・ECM ・O2 センサ ・ABS
14	SIGNAL	15A	・ポジションランプ ・ストップランプ ・テールランプ ・ライセンスランプ ・ターンシグナルランプ ・スピードメータ ・ホーン ・USBソケット
15	FUEL	10A	・スピードメータ ・フューエルインジェクタ ・フューエルポンプ ・ECM
16	FAN	15A	クーリングファンモータ
17	SPARE	10A	-
18	SPARE	15A	-

灯火装置、方向指示器

■ LED（発光ダイオード）

この車の灯火装置や方向指示器には、LEDを使用しています。
LEDを使用したランプは非分解式のため、LEDのみの交換はできません。もし、LEDが１つでも点灯しなくなった場合は、スズキ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ H/L		LED
ポジション		LED
ストップ／テール		LED
ターンシグナル	前	LED
	後	LED
ライセンスランプ		12V5W

メ モ

トラブルシューティング

トラブルシューティングとは

トラブルシューティングには、一般的なトラブルの原因を見つけるための情報をのせています。
お車に不具合や違和感があるときは早めにスズキ販売店にご相談いただくことをおすすめします。

注 記

不適切な整備や調整は、お車の損傷の原因になります。このような損傷は、保証が適用されない場合があります。

不明な点は、スズキ販売店にご相談ください。

エンジンがかからないときは

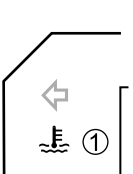
次の点を確認してください。

- 始動方法は手順通りですか？（P.143）
- フューエルタンクに燃料は入っていますか？（P.151）
- エンジン警告灯（MIL）は点灯したままになっていませんか？（P.52）
- イモビライザ警告灯は点灯したままになっていませんか？（P.136）
- バッテリ端子はゆるんでいませんか？（P.194）
- ヒューズが切れていませんか？（P.251）

異常がある場合はスズキ販売店にご相談ください。

オーバーヒートしているときは

冷却水温が規定値以上になると水温警告灯①が点灯します。



水温警告灯が点灯した場合は安全な場所に停車して、必要に応じた処置を行ってください。

1. メインスイッチをOFF にしてエンジンを停止します。
2. メインスイッチを ON にしてラジエータファンを作動させ、エンジンを冷やします。
   ラジエータファンが作動しない場合はエンジンをかけずにスズキ販売店にご相談ください。

3. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れがないか確認します。
   - 水漏れしているときは、エンジンをかけずにスズキ販売店にご相談ください。
   - 水漏れがなく、冷却水の量が不足しているときは冷却水を補充します。やむをえず水だけを補充した場合は、できるだけ早くスズキ販売店で冷却水の点検または交換をしてください。
4. 上記を確認して異常がない場合は、水温警告灯が消灯すれば走行可能です。お車に不具合がないかを、できるだけ早くスズキ販売店で点検を受けてください

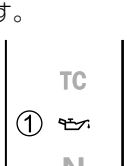
注 記

オーバーヒートしている状態で走行するとエンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

水温警告灯が点灯した状態で走行しないでください。

油圧が下がったときは

エンジン油圧が規定値以下になると油圧警告灯①が点灯します。



油圧警告灯が点灯した場合は安全な場所に停車して、必要に応じた処置を行ってください。

1. メインスイッチをOFF にしてエンジンを停止します。
2. エンジンオイル量が適切であるか点検します。エンジンオイル量が不足している場合は補充してください。
3. エンジンをかけます。
   - 油圧警告灯が消灯したら走行可能です。
   - 油圧警告灯が消灯しない場合はエンジンを停止してスズキ販売店にご相談ください。
4. エンジンオイルの量が減っていた場合は、エンジンが損傷しているおそれがありますのでスズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

エンジンの油圧が低下している状態で走行すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

油圧警告灯が点灯した状態で走行しないでください。

メータに次の表示が出たときは

メータに次の表示が出たときは、スズキ販売店にご相談ください。

- エンジン警告灯（MIL）が点灯または点滅したとき（P.52）
- ポップアップ表示に “FI！” を表示したとき（P.56）
- ポップアップ表示に “CHECK！” が消えないとき（P.56）
- メインスイッチをONにしたときに、ABS警告灯が点灯しないとき（P.59）
- ギヤポジション表示がニュートラルなのに、ニュートラルインジケータライトが点灯しないとき（P.69）
- ギヤポジション表示が1、2、3、4、5または6のときに、ニュートラルインジケータライトが点灯するとき（P.52）
- トラクションコントロールシステムを ON 設定しているときに、走行中、消灯していた TC インジケータライトが点灯したとき（P.61）
- サービスリマインダ表示が点灯したとき（P.78）
- 水温警告灯が点灯または点滅し、エンジンが冷えても消灯しないとき（P.64）
- エンジンオイルが適量なのに、油圧警告灯が点灯したとき（P.63）

お車が次の状態のときは

お車が次の状態のときは、スズキ販売店にご相談ください。

- エンジンが始動しないとき
- 転倒したとき
- 異音や液漏れがあるとき
- エンジンの出力が落ちたときや出ないとき
- ブレーキ液の液面が下がったときやブレーキ液やパッドを交換するとき
- ブレーキの効きが悪くなったとき
- 冷却水の液面が下がったときや交換するとき
- ヒューズが切れた原因が分からないとき
- タイヤが限度溝まで減ったときや交換するとき

お車の手入れ

保管のしかた

■ 概要

お車に長期間乗らないときには、保管する前に十分なお手入れが必要です。次にあげるお手入れをしましょう。

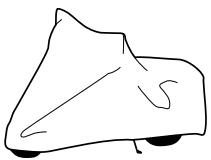
アドバイス

ご自身で行うのが難しいときは、スズキ販売店にご相談ください。

■ 車体

お車は、倒れにくい平坦な場所に駐車してください。もし、メインスタンドを装備している車の場合は、メインスタンドで駐車してください。

保管する前には洗車し、乾燥させた後にボディカバーをかけてください。



アドバイス

ボディカバーは、エンジン、エキゾーストパイプやマフラが冷えてからかけてください。

■ バッテリ

1. 「バッテリ」〈☞P.191〉の項目を参考に、バッテリを取り外します。
2. バッテリの外側を清掃するときは中性洗剤でふき、端子が腐食しているときはワイヤーブラシなどでサビを落としてください。
3. 気温が低いときは、室内で保管してください。

アドバイス

バッテリは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し、完全補充電して室内か風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は(－)ターミナルを外してください。

補充電については、スズキ販売店にご相談ください。

■ タイヤ

タイヤの空気圧は規定圧に調整してください。必要に応じてメンテナンス用スタンドなどを使用して前輪と後輪を地面から浮かせてください。

アドバイス

前輪と後輪を地面から浮かせる方法については、スズキ販売店にご相談ください。

長期保管後は

■ 再始動の手引き

1. ボディカバーを外し、洗車します。
2. スズキ販売店でエンジンオイルとオイルフィルタを交換します。
3. 「バッテリ」〈☞P.191〉の項目を参考に、バッテリを取り付けます。
4. 「注油」〈☞P.189〉の項目を参考に、注油します。
5. 日常点検を実施します。
6. エンジンをかけます。

サビを防ぐために

■ サビの原因

お車のサビを防いで、長持ちさせるためにお手入れしましょう。

次のものは腐食の原因なります。

- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などの塩分、未舗装走行による飛び石などによる傷、湿気、化学物質の蓄積など
- 軽い事故や石や砂利が当たったときの金属部品や塗装面への傷など

■ サビにくくするためには

- 少なくとも月に1回は、洗車しましょう。また、洗車後はきれいなやわらかい布で水分をふきとってください。
- お車に凍結防止剤、化学薬品、油やタール、樹液、鳥のふんなどが付着するとお車の外観を悪くするだけでなく、さびなどの原因になりますので、付着したときはできるだけ早く取り除いてください。水で落ちない場合には、クリーナを使用してください。特別なクリーナを使用するときには、クリーナの取扱い方法をよくお読みください。

- お車に傷を見つけたら、できるだけ早く直してください。塗装面より深い傷はサビの原因になりますので、飛び石やひっかき傷を見つけたときはよく確認してください。サビのおそれがあるときには、タッチアップペイントで補修してください。傷がひどいときは、スズキ販売店にご相談ください。
- お車の保管場所は、乾燥していて換気の良い場所が理想的です。ガレージで洗車したり濡れたりしたまま保管することが多いと、ガレージの湿度が上がりサビの発生や進行の原因になるおそれがあります。また、換気の悪いガレージに濡れた車を停めた場合には、ガレージの中が暑くてもサビが発生するおそれがあります。
- 駐車するときは、お車にボディカバーをかけましょう。日中の強い日差しにさらされると、塗装面、プラスチック部品、メータなどの着色部品の色あせの原因になります。お車を有害な紫外線などから守るために、品質の良い、通気性に優れたカバーをご使用ください。適切なカバーの選び方が分からない場合には、スズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。

アドバイス

海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

洗車

■ 車体

お車を長持ちさせるためにも、きれいな状態に保ちましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。なお、洗車はエンジンが冷えているときに行いましょう。
洗車は、次の手順で行ってください。

1. 冷たい水道水をかけながら、やわらかいスポンジやブラシでほこりや泥を落とします。硬いブラシなどを使うと塗装面に傷を付ける原因になりますので使用しないでください。
2. スポンジや柔らかい布を使って、中性洗剤で洗います。スポンジや布に付いた汚れで傷を付けないためにも、頻繁に洗浄液に浸しましょう。

3. 汚れが完全に取れたら、水道水で洗剤を洗い流します。

アドバイス

洗剤を使用して洗車したときに、洗剤が洗い流せていなかった場合には樹脂部品に悪影響を与えるおそれがあります。洗剤を使用したときは、大量の水道水を使用して完全に洗い流してください。

4. すすぎ終わったら、セーム革などの吸水性のいいやわらかい布で水分をふき取り日陰で乾燥させます。

5. 塗装面に損傷がないかを注意深く点検します。損傷があるときは、タッチアップペイントを用意し、下記要領でタッチアップします。
   a. 損傷している箇所を清掃し乾燥させます。
   b. ペイントをかき混ぜ、損傷部分に小さいブラシで薄く塗ります。
   c. ペイントを完全に乾燥させます。

⚠警 告

フェアリングとハンドルの間に物を置くと、ハンドル操作に悪影響を与えます。

ハンドル操作を妨げるところに、物を置かないでください。

注 記

洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。

洗車時には、水が入らないように注意してください。

注 記

アルカリ性や強酸性のクリーナ、ガソリン、ブレーキフルード、その他のケミカル類で洗車すると部品を損傷させるおそれがあります。

洗車後、大量の水道水を使用し中性洗剤を完全に洗い流してください。

注 記

コイン式の洗車場にあるような高圧洗浄機やスチーム洗車機を使用すると車体に損傷をあたえ、さびや腐食の原因になるだけでなく、部品の消耗を早めるおそれがあります。また、パーツクリーナも車体に悪影響をおよぼすおそれがあります。

洗車をする場合は高圧洗浄機を使用しないでください。また、スロットルボディやフューエルインジェクション、センサ類にパーツクリーナを使用しないでください。

注 記

ラジエータに高圧の水をかけると、冷却フィンが損傷するおそれがあります。

ラジエータ周辺を洗うときには、注意してください。

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり、流したりしないでください。

- メインスイッチ
- スパークプラグ
- フューエルタンクキャップ
- フューエルインジェクションシステム
- ブレーキマスターシリンダ

アドバイス

洗車後や雨天走行後にヘッドランプのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドランプを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリあがりを防ぐために、エンジンを掛けながらヘッドランプを点灯させてください。

■ ホイール

ホイールの美しさを保つため、定期的な清掃に加えて、海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後はできるだけ早く冷水で水洗いしましょう。

1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 冷水で十分に水洗いをして、乾いた布で水分をふき取ります。

アドバイス

ホイールリムは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いものでこすったり、当てたりしないでください。

■ プラスチック製部品

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイ、ウインドスクリーン、フェアリングなどのプラスチック製部品は傷つきやすいので、清掃するときは中性洗剤または石けん水で洗った後、水洗いし、やわらかい布でふいてください。

注 記

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイ、ウインドスクリーンなどのプラスチック製部品に、以下のものが付着すると傷や部品の損傷の原因になります。

- **コンパウンド入りワックス**
- **油膜とり剤やはっ水剤などのケミカル用品**
- **酸性・アルカリ性の洗剤**
- **ブレーキ液、ガソリン、アルコール、有機溶剤など**

■ エキゾーストパイプ

ステンレス鋼のエキゾーストパイプは、油脂などの汚れにより焼けむらが生じることがあります。

- 汚れは、ステンレス用の台所洗剤を使って、布かスポンジで洗浄ののち、十分に水洗いし乾いた布で水分をふき取ります。
- 焼けむらが生じた場合は、ステンレススチールマフラークリーナ（品番99000-59312）などで磨いてからで磨いてから、汚れを落とします。

注 記

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

冷めるまでは触れないように、注意してください。

アドバイス

排気熱によってエキゾーストパイプは変色しますが、機能上問題はありません。

■ ワックスがけ

洗車後は、サビ予防や塗装面の保護のためにワックスがけを行ってください。

- ワックスとポリッシャーは、品質のいいものを使用してください。
- ワックスとポリッシャーは、そのメーカーの取扱説明書に従って行ってください。

■ つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- 使用中の摩擦や、表面を擦り過ぎたり強く磨いたりすると、つや消し表面が変化することがあります。

洗車後は

■ 洗車後のお手入れ

車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取り付け部へグリースなどを注油してください。
注油する場所については、“注油ポイント”の項目をご確認ください。
また、前回の運転時に見つかった不具合がないかを「日常点検」〈☞P.183〉の項目を参考にして確認してください。

▲警 告

洗車後はブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。

効きが悪いときは、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

触媒装置

■ 触媒装置について

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスの有害物質の排出量を低減します。

不適切な調整や誤った取扱いによるエンジンの不完全燃焼（失火）は、触媒装置を異常な高温にするおそれがあります。触媒装置および他の関連部品が損傷する原因になりますのでご注意ください。

触媒装置に特別な点検や整備は必要ありませんが、エンジンは定められた点検・整備を実施してください。

注 記

触媒装置および他の関連部品の損傷を避けるために、次の注意事項をお守りください。

- **必ず無鉛ガソリンを使用してください。**
- **走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作して、エンジンを停止しないでください。**
- **押しがけや下り坂を利用してのエンジンの始動を行わないでください。**
- **診断テスト中などで、スパークプラグワイヤを取り外した状態でエンジンを始動しないでください。**
- **不要な空ふかしや長時間のアイドリングは行わないでください。**

- フューエルタンク内のガソリンを使い切ること（ガス欠）のないようにしてください。
- エンジンの性能の低下や不調を感じたときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

車両の情報記録装置

■ 情報記録装置について

お車には、車両の制御や操作に関するデータを記録するコンピュータが装備されており、主に次のデータを記録します。

■ データの種類について

- エンジンの回転速度など、エンジンの状態
- ギヤポジションなど、変速機の状態
- アクセル、ブレーキ(ABS含む)、ギヤポジションなどの操作状態
- 各種コンピュータシステムの故障に関する情報

アドバイス

- **お車のタイプにより、記録されるデータは異なります。**
- **音声は記録していません。**
- **使用条件などにより、データが記録されない場合があります**

■ データの開示について

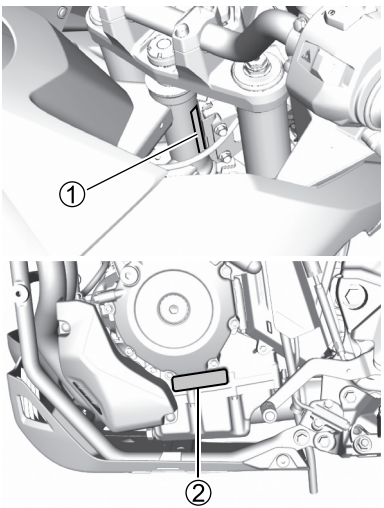
スズキ株式会社およびスズキ株式会社が委託した第三者は、コンピュータに記録されたデータを、お車の故障診断・研究開発・品質の向上などを目的に取得・利用することがあります。なお、スズキ株式会社およびスズキ株式会社が委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令その他法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

識別ナンバー打刻位置

■ 識別ナンバーについて

お車の登録書類を作るときなどの手続きのために、フレームナンバー①とエンジンナンバー②を記入しておきましょう。
また、販売店で部品を注文するときに、これらのナンバーが必要になる場合があります。



■ フレームナンバー

フレームナンバー ①はステアリングヘッドに刻印されています。

今後の参照のためにフレームナンバーをここに記入してください。

機　種	V-STROM 800 DE
フレームナンバー	

■ エンジンナンバー

エンジンナンバー ②はクランクケースに刻印されています。

今後の参照のためにエンジンナンバーをここに記入してください。

エンジンナンバー	

■ キーナンバー

お車には、キーが2個と英数字のキーナンバーを印したプレートがセットされています。

アドバイス

- **この車のキーは通常の機能に加え、イモビライザの役割を持っています。**
- **万一破損させたり、紛失したりすると多大な費用が必要となりますので大切に扱ってください。**
- **スペアキーは大切に保管してください。**

環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリ、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪取扱店の証

◆ 二輪車リサイクルマークと リサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。
リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、次のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。
（財）自動車リサイクル促進センター
ホームページ：https://www.jarc.or.jp/

サービスデータ

主要諸元

項目		諸元
長さ		2,345mm
幅		975mm
高さ		1,310mm
軸距		1,570mm
車両重量		230kg
乗車定員		2人
タイヤサイズ	前	90/90-21M/C 54H
	後	150/70R17M/C 69H
最小回転半径		2.7m

項目	諸元
エンジン形式	4サイクル・2気筒
冷却方式	水冷
燃料供給方式	フューエルインジェクション
総排気量	775cm^3
内径×行程	84.0×70.0mm
アイドリング回転速度	1,300r/min
最高出力	60kW/8,500r/min
最大トルク	76N·m/6,800r/min

項　　目		諸　　元
クラッチ形式		湿式･多板･コイルスプリング式
トランスミッション		常時噛合式6段リターン
減速比	1次	1.675
	2次	2.941
変速比	1速	3.071
	2速	2.200
	3速	1.700
	4速	1.416
	5速	1.230
	6速	1.107
ブレーキ形式	前	油圧式ダブルディスク
	後	油圧式シングルディスク

項　　目	諸　　元
フューエルタンク容量	20L
点火方式	フル・トランジスタ式バッテリ点火

サービスデータ

項　　目	調　整　値
ドライブチェーンのゆるみ	30～40mm

タイヤ空気圧	1人乗車時	前	225kPa
		後	250kPa
	2人乗車時	前	225kPa
		後	280kPa

エンジンオイル量	オイル交換時	3.0L
	オイルフィルタ交換時	3.5L
	全　容　量	3.9L

スパークプラグ	種類	NGK	LMAR8BI-9
	ギャップ		0.8～0.9mm

項　　目		調　整　値
バッテリ	種　　類	FTX9-BS メンテナンスフリー
	容　　量	12V—8.0Ah (10HR)

ランプ	ヘッドランプ H/L		LED
	ポジションランプ		LED
	ストップ／テール		LED
	ターンシグナル	前	LED
		後	LED
	ライセンスランプ		12V5W

ヒューズ	10A, 15A, 20A, 30A

メ モ

お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはメンテナンスノート巻末に記載されている、お近くのスズキ二輪代理店にお申しつけください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

① 機種、型式、車台番号
② 購入年月日　④ 相談事項
③ 走行距離　⑤ ご住所、お名前、電話番号

お買いあげの販売店

［TEL］

スズキ株式会社の窓口は…
〒 432-8611　浜松市南区高塚町 300
スズキ株式会社
お客様相談室
◆ **フリーダイヤル** 0120-402253
受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00

弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきましては、スズキ株式会社のホームページに掲載していますのでご覧ください。
(https://www.suzuki.co.jp)

こんなときは、スズキ販売店に持ち込む前に次のことを調べてみてください。

エンジンがかからない
- かけかたは取扱説明書どおりですか
- ガソリンは入っていますか

ブレーキがきかない
- ディスクブレーキはブレーキパッドの磨耗、ドラムブレーキはブレーキレバーの遊びを点検してください

ランプ類が点灯しない
- ヒューズが切れていないかを点検してください